

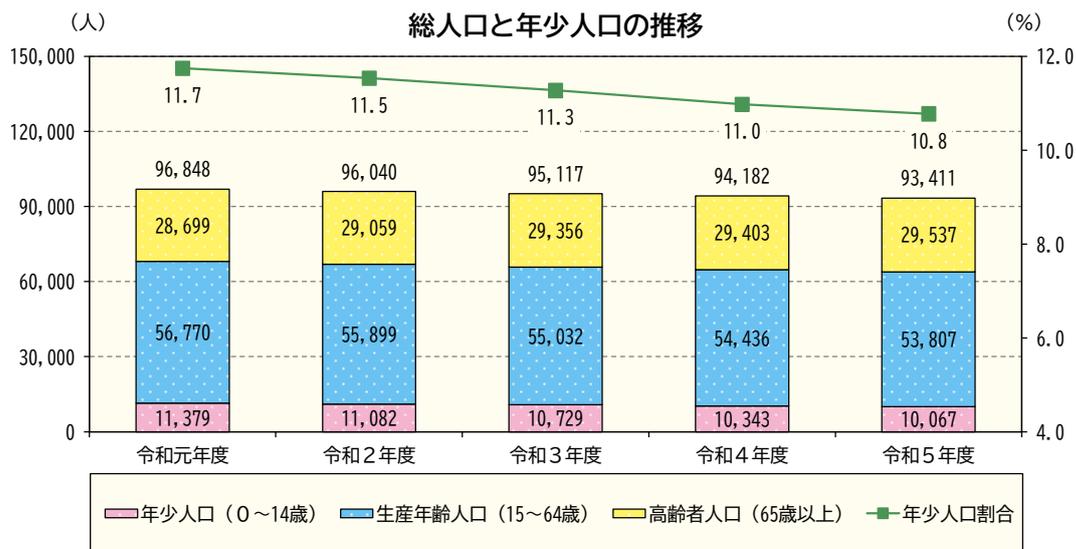
第2部 こども・若者・子育て当事者を取り巻く状況

1. 統計でみる鹿沼市の現状

(1) 人口動態

① 総人口と年少人口の推移

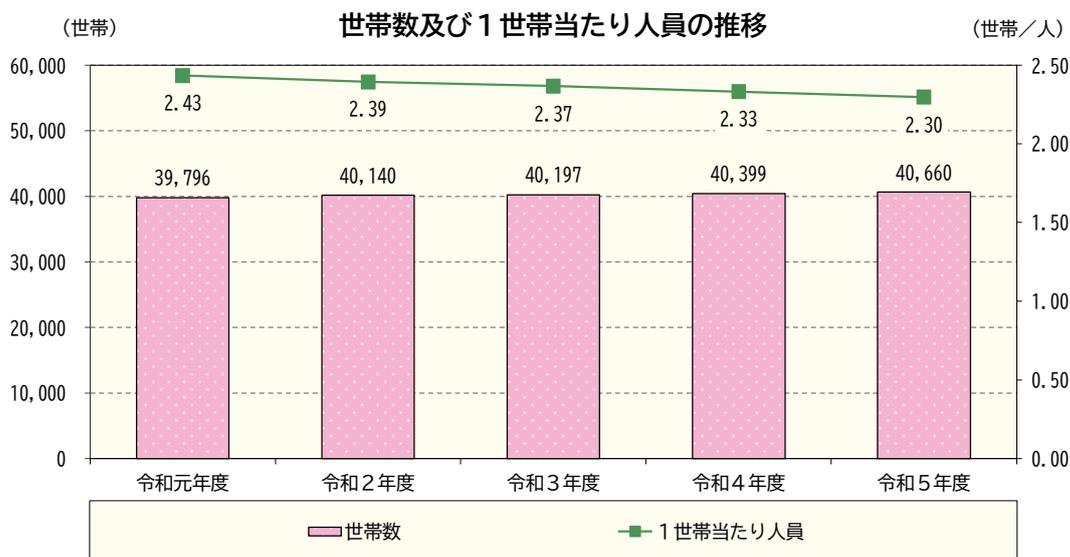
本市の人口は、減少傾向となっており、令和5年度においては、93,411人となっています。また、0～14歳の年少人口についても同様に減少傾向にあります。



資料：鹿沼市「人口状況」(各年度3月31日時点)

② 世帯数及び1世帯当たり人員の推移

本市の世帯数は、増加傾向となっており、令和5年度では40,660世帯となっています。一方で、1世帯当たり人員の数は減少傾向となっており、令和5年度では2.30となっています。

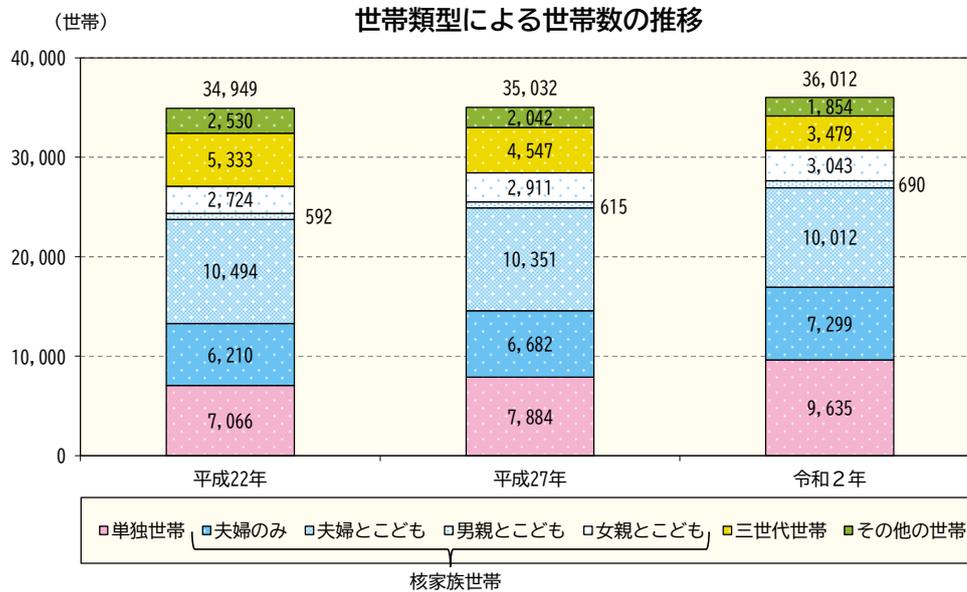


資料：鹿沼市「人口状況」(各年度3月31日時点)

③ 世帯類型

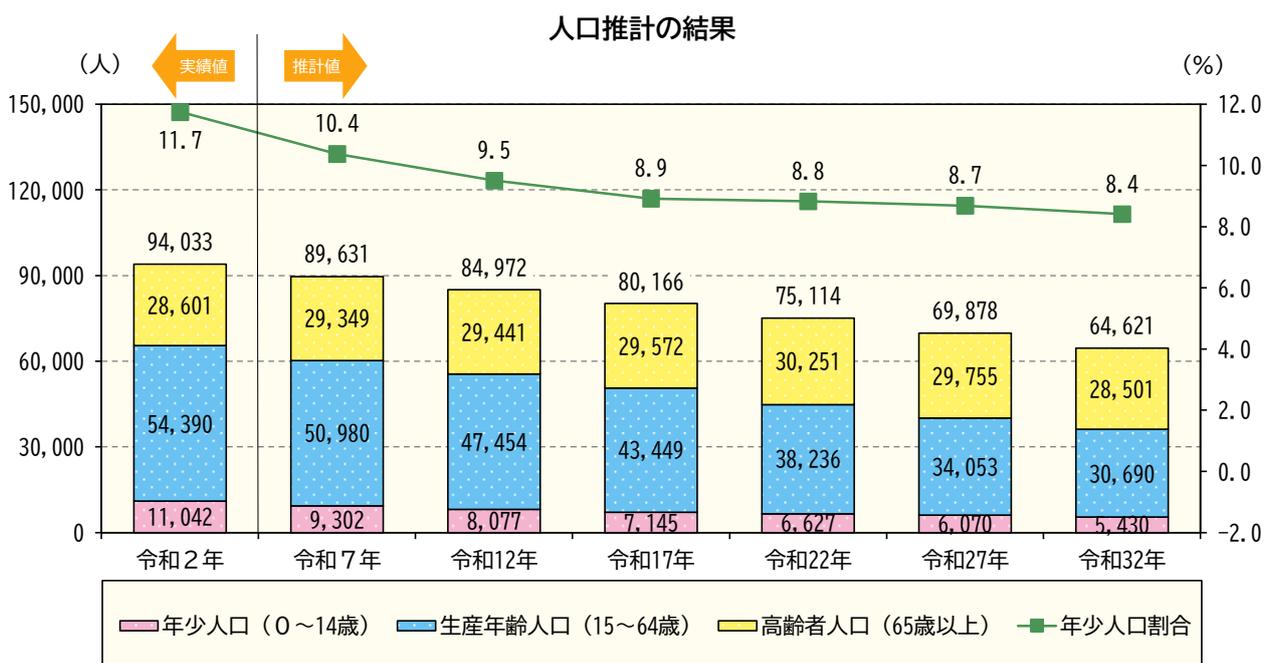
本市の世帯類型をみると、単独世帯が増加傾向にあり、令和2年では9,635世帯となっています。核家族世帯の内訳をみると、夫婦とこどもの世帯が減少し、夫婦のみの世帯やひとり親とこどもの世帯が増加しています。

三世帯世帯は年々減少しており、令和2年では3,479となっています。



④ 人口推計結果

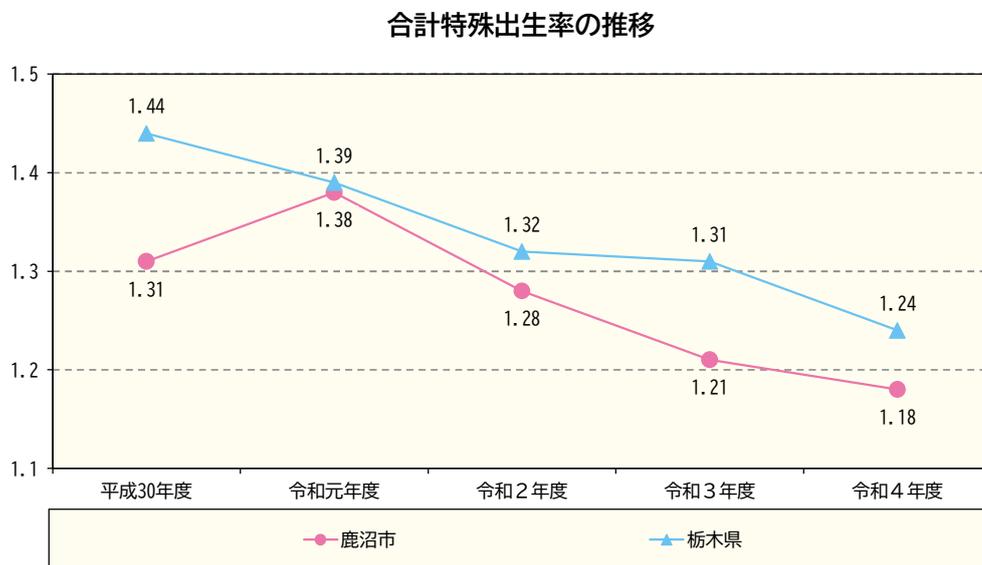
人口推計の結果をみると、今後は人口減少傾向となり、令和12年では84,972人、令和22年では75,114人となると推計予測されます。また、年少人口割合も減少傾向となっており、令和2年では11.7%でしたが、令和22年には8.8%になるものと予測されます。



(2) 少子化の動向

① 合計特殊出生率の推移

本市の合計特殊出生率は、令和元年以降において減少傾向となっており、令和4年には1.18となっています。

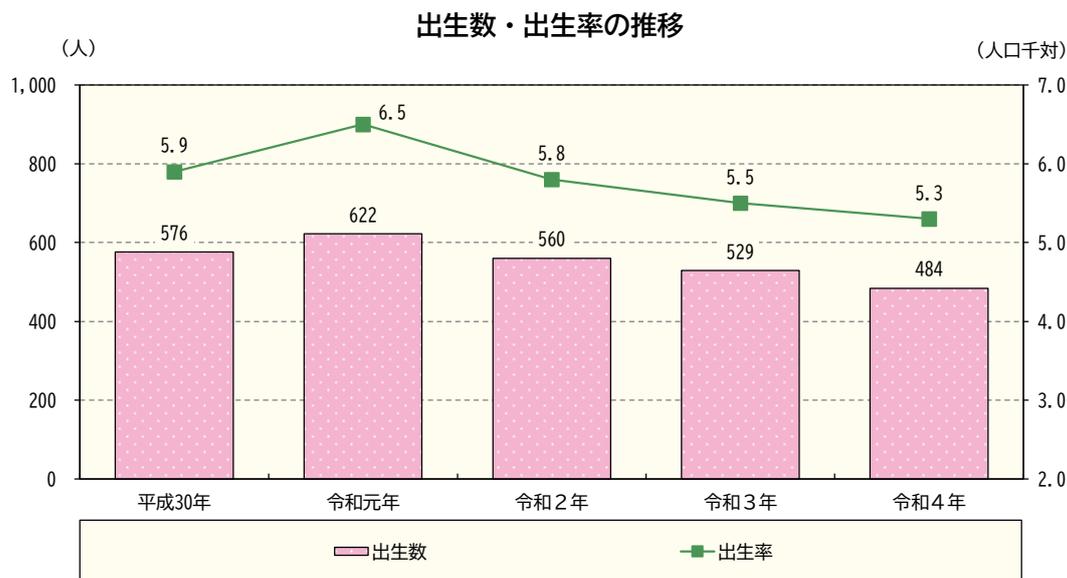


資料：栃木県「栃木県保健統計年報」

② 出生数・出生率の推移

本市の出生数は、令和元年以降において減少傾向となっており、令和4年には484人となっています。

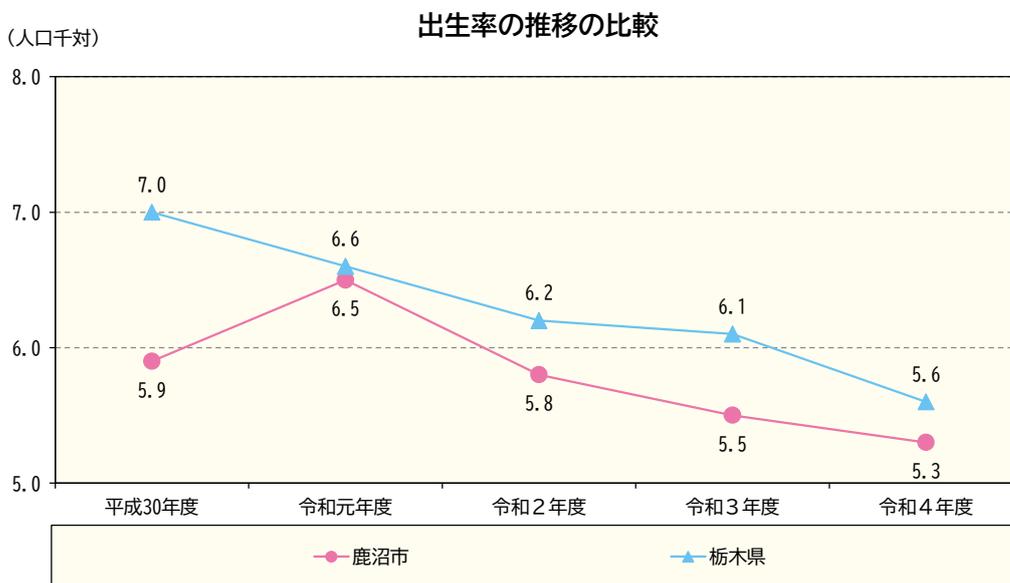
また、出生率も同様に、令和元年以降において減少傾向となっており、令和4年には5.3となっています。



資料：栃木県「栃木県保健統計年報」

③ 出生率の推移の比較

本市の出生率は、栃木県よりも低い状況であり、いずれも年々減少傾向となっています。

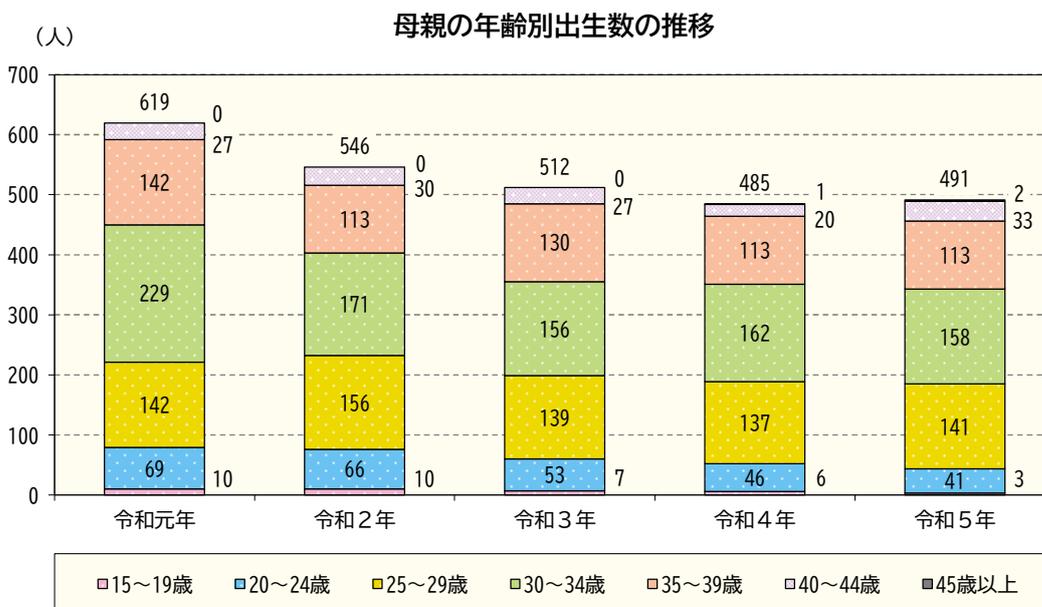


資料：栃木県「栃木県保健統計年報」

④ 母親の年齢別出生数の推移

本市の母親の年齢別出生数は、全体的に減少傾向となっています。

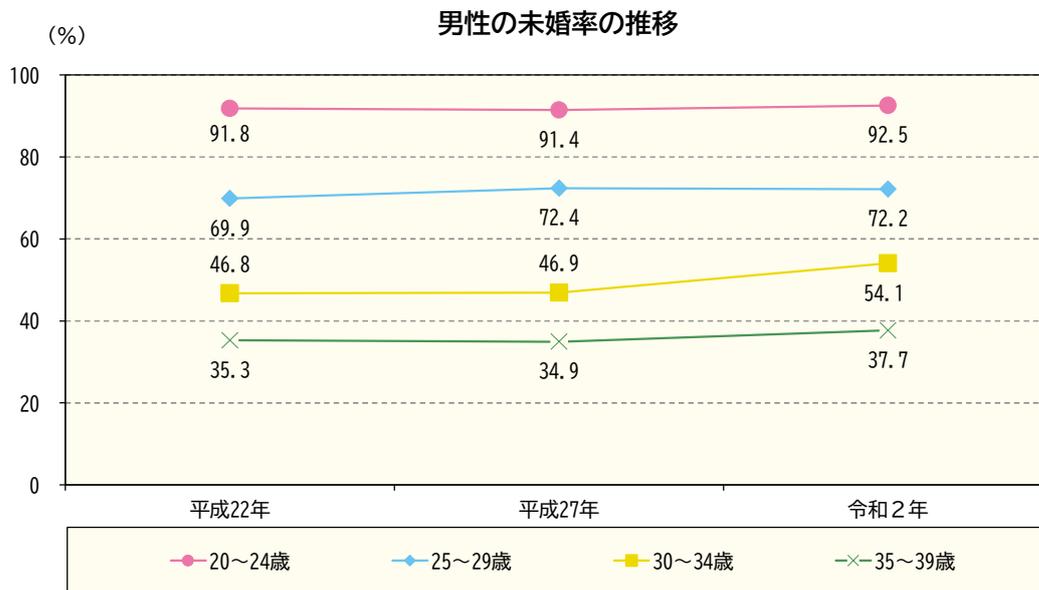
特に30～34歳においては、令和元年と比べ、令和5年では71人減少しています。



資料：厚生労働省「人口動態調査」

⑤ 未婚率の推移と比較（男性）

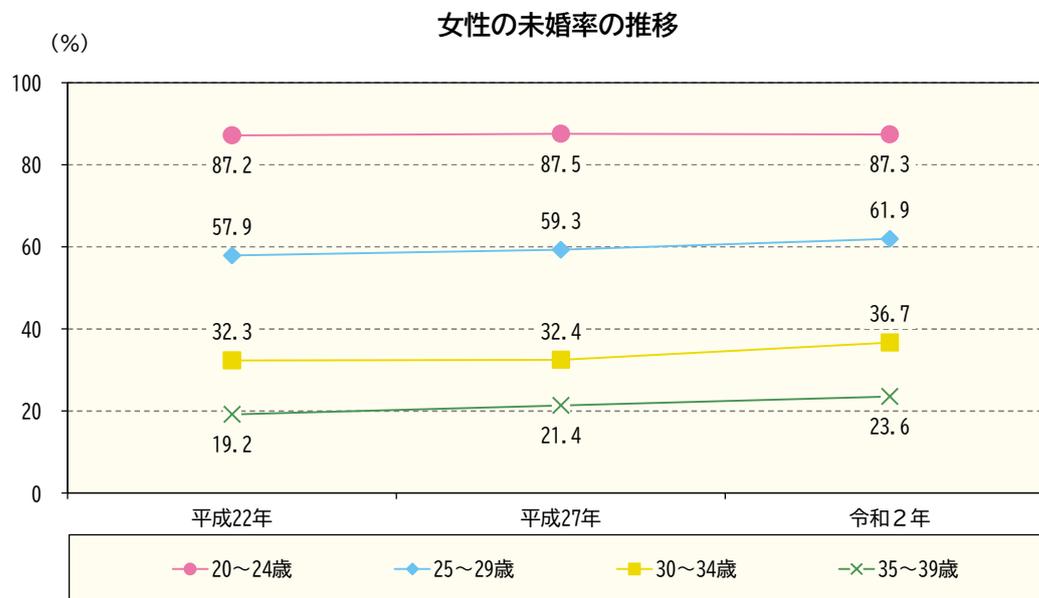
本市の男性の未婚率については、20歳～39歳において増加傾向となっています。



資料：国勢調査

⑥ 未婚率の推移と比較（女性）

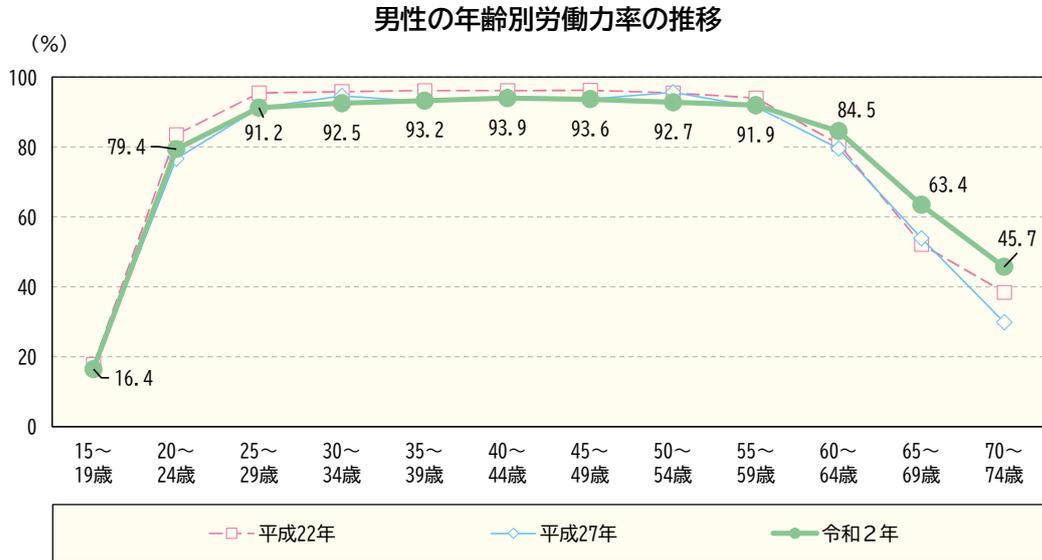
本市の女性の未婚率については、20歳～39歳において増加傾向となっています。



資料：国勢調査

⑦ 年齢別労働力率の推移と比較（男性）

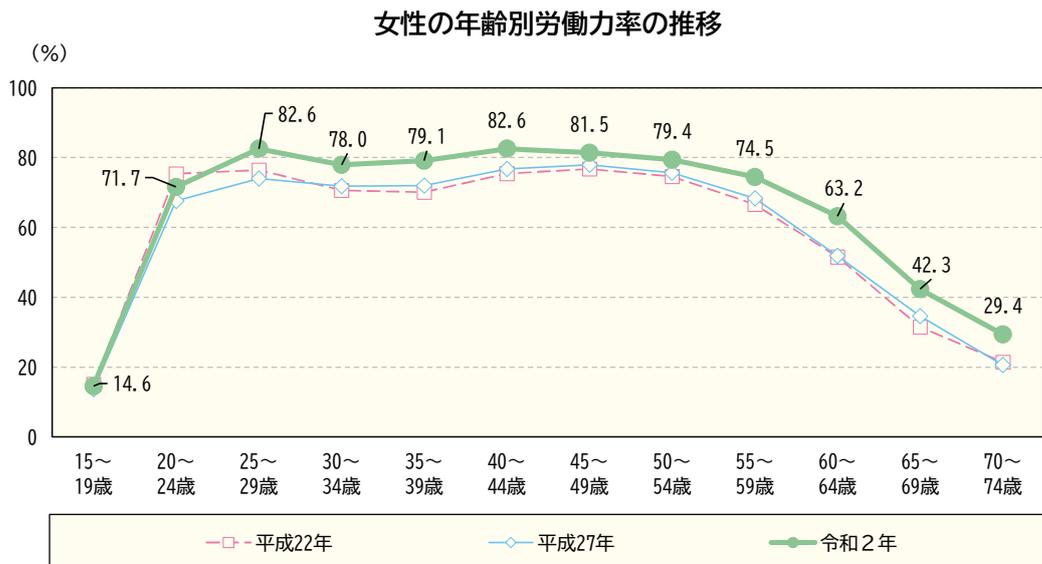
本市の男性の年齢別労働力率は、令和2年の国勢調査によると、25歳以上から60歳未満の年代において90%以上となっています。



資料：国勢調査

⑧ 年齢別労働力率の推移と比較（女性）

本市の女性の年齢別労働力率は、令和2年の国勢調査によると、25歳以上から55歳未満の年代が約80%となっています。M字カーブの谷が浅くなっており、出産後も仕事を続けたり、早期に仕事を再開したりする女性が増加していることがうかがえます。

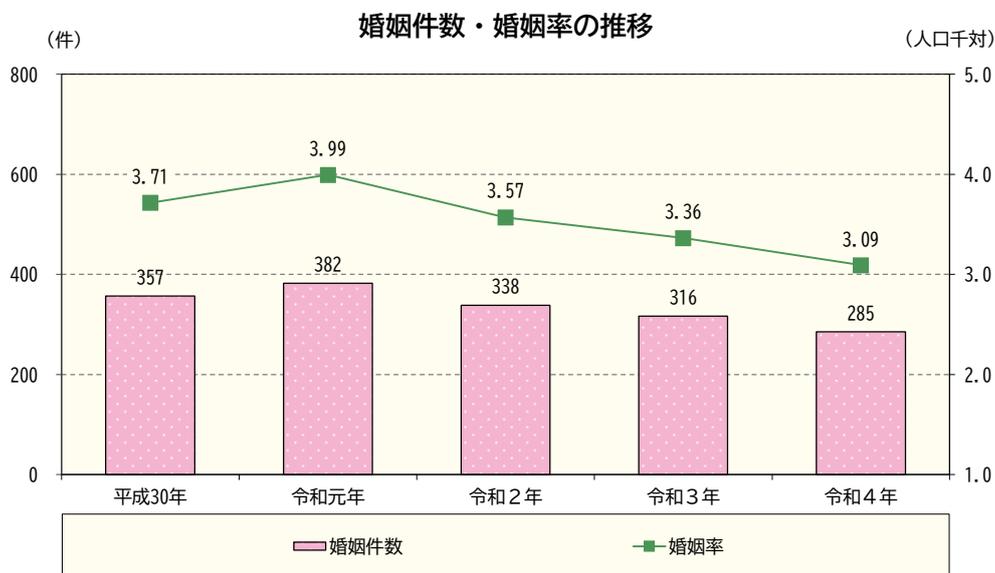


資料：国勢調査

⑨ 婚姻件数・婚姻率の推移

本市の婚姻件数は、令和元年以降において減少傾向となっており、令和4年では285件となっています。

また、本市の婚姻率についても、令和元年以降において減少傾向となっており、令和4年では3.09となっています。

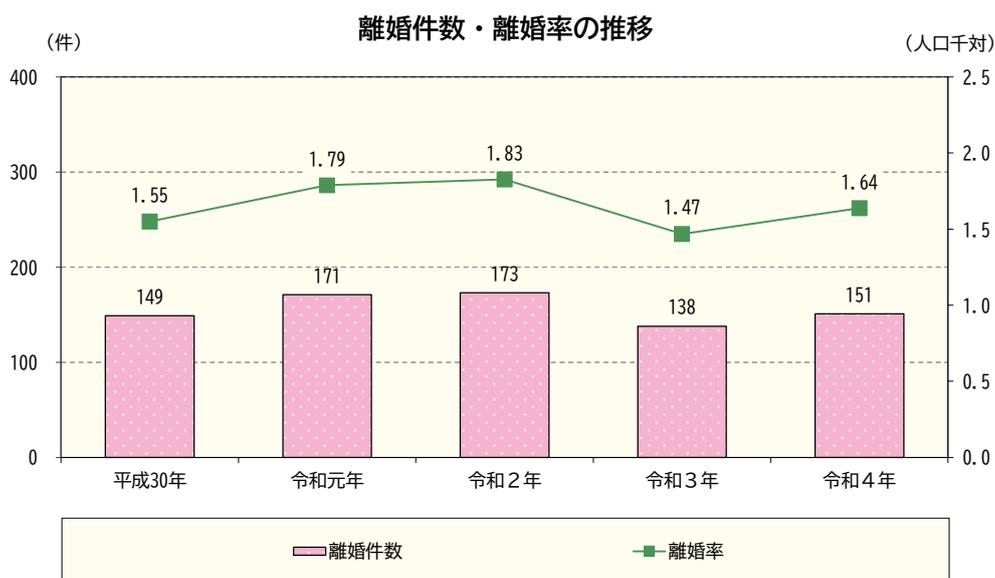


資料：鹿沼市統計書

⑩ 離婚件数・離婚率の推移

本市の離婚件数は、増減を繰り返しており、令和4年では151件となっています。

また、本市の離婚率についても、増減を繰り返しており、令和4年では1.64となっています。

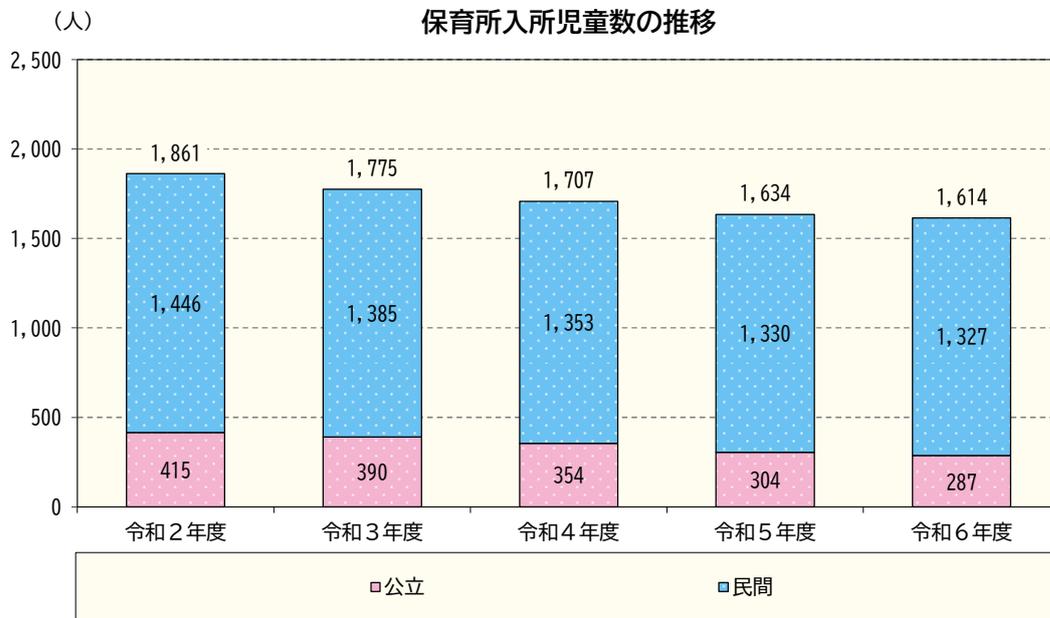


資料：鹿沼市統計書

(3) 保育環境・教育環境の状況

① 保育所入所児童数の推移

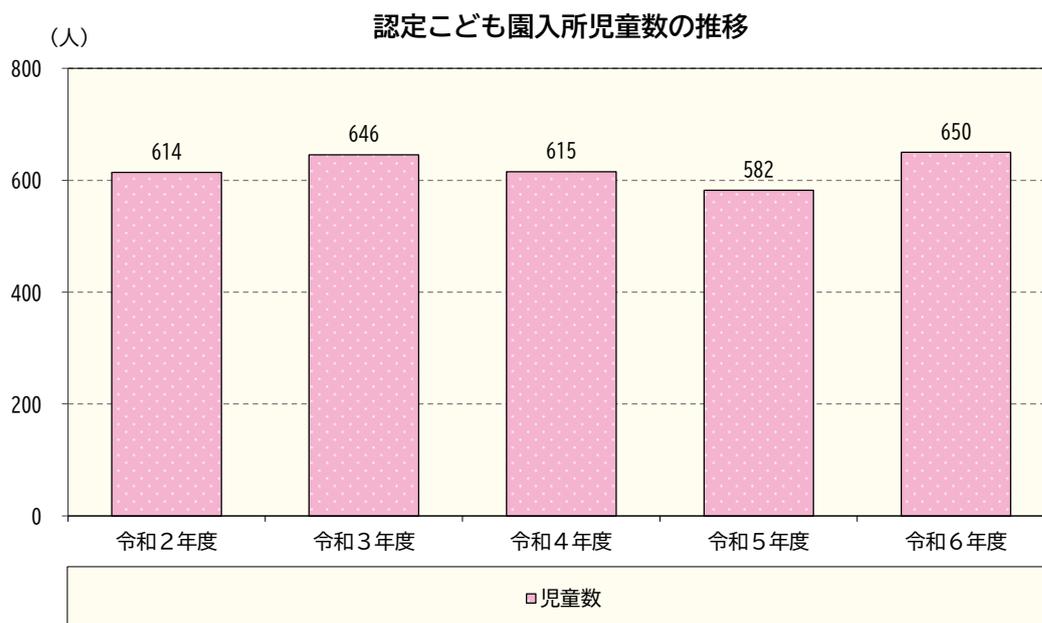
本市の保育所入所児童数は、減少傾向となっており、令和6年度では全体で1,614人となっています。



資料：保育課（各年度4月1日現在）

② 認定こども園入所児童数の推移

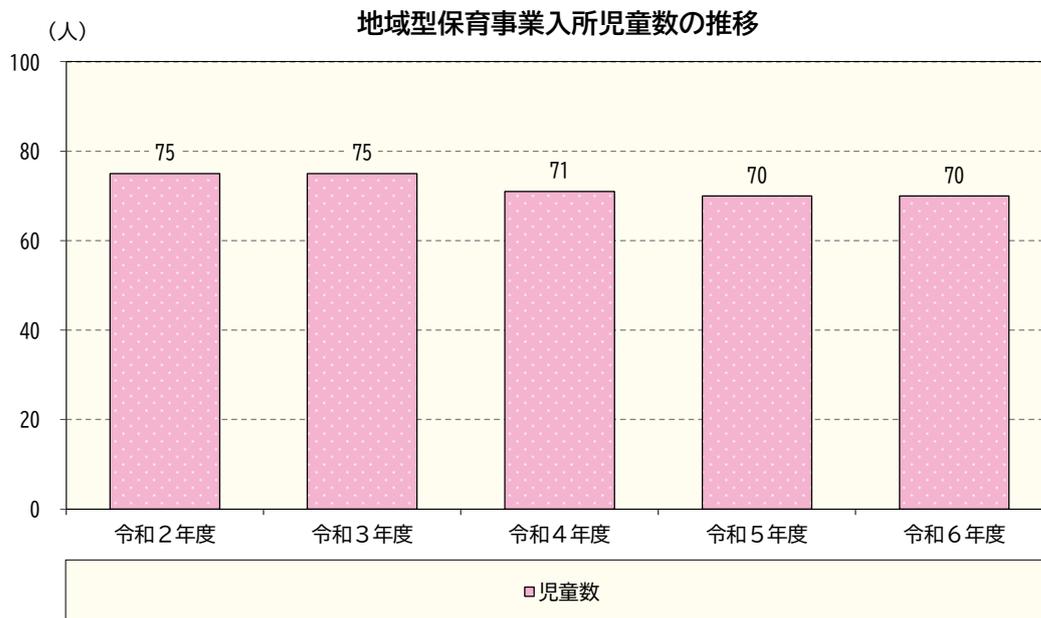
本市の認定こども園入所児童数は、幼稚園から幼保連携型認定こども園への移行に伴い、令和6年度は650人と増加しています。



資料：保育課（各年度4月1日現在）

③ 地域型保育事業入所児童数の推移

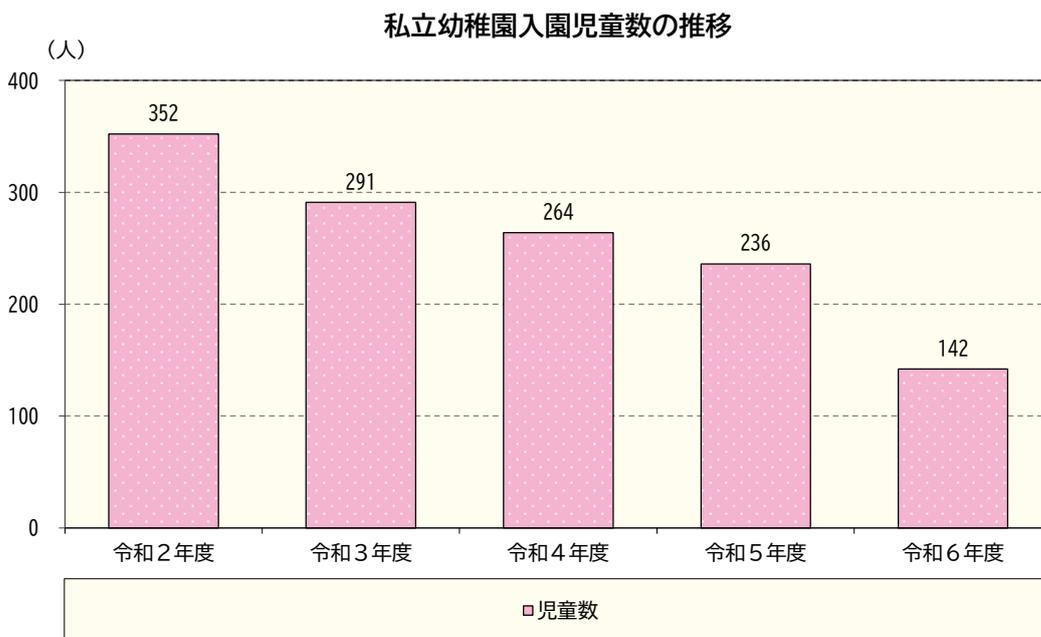
本市の地域型保育事業入所児童数は令和6年度で70人となっています。



資料：保育課（各年度4月1日現在）

④ 幼稚園入園児童数の推移

本市の幼稚園入所児童数は、幼稚園から幼保連携型認定こども園への移行及び共働き世帯の増加などにより減少傾向となっており、令和6年度では142人となっています。



資料：保育課（各年度4月1日現在）

⑤ 待機児童数の推移

本市の待機児童は、4月1日及び10月1日時点でいずれも0人となっています。

また、保留児童については3歳未満児が多く令和6年は58人と増加傾向にあります。

待機児童数の推移

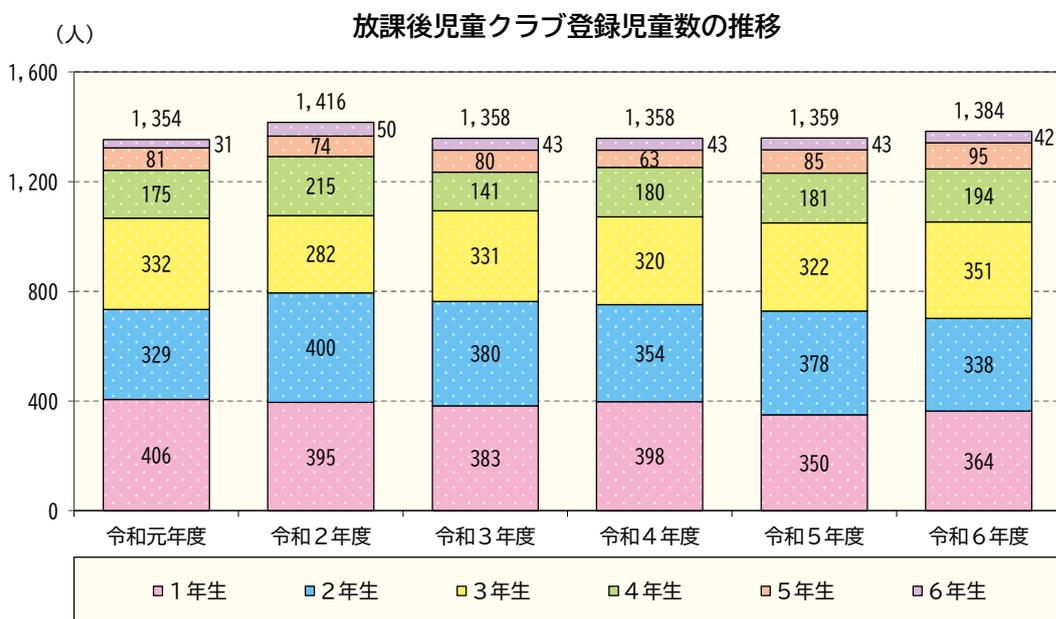
(単位：人)

年度		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計	
R2	待機	4/1 現在	0	0	0	0	0	0	
		10/1 現在	0	0	0	0	0	0	
	保留	4/1 現在	1	12	6	5	2	0	26
		10/1 現在	17	10	9	3	1	0	40
R3	待機	4/1 現在	0	0	0	0	0	0	0
		10/1 現在	0	0	0	0	0	0	0
	保留	4/1 現在	1	4	4	2	0	0	11
		10/1 現在	29	7	8	8	4	5	61
R4	待機	4/1 現在	0	0	0	0	0	0	0
		10/1 現在	0	0	0	0	0	0	0
	保留	4/1 現在	4	6	3	0	1	0	14
		10/1 現在	26	16	3	3	1	0	49
R5	待機	4/1 現在	0	0	0	0	0	0	0
		10/1 現在	0	0	0	0	0	0	0
	保留	4/1 現在	6	12	7	4	0	1	30
		10/1 現在	19	9	12	1	0	0	41
R6	待機	4/1 現在	0	0	0	0	0	0	0
		10/1 現在	0	0	0	0	0	0	0
	保留	4/1 現在	7	12	2	1	0	0	22
		10/1 現在	42	9	7	0	0	0	58

資料：保育課

⑥ 放課後児童クラブ登録児童数の推移

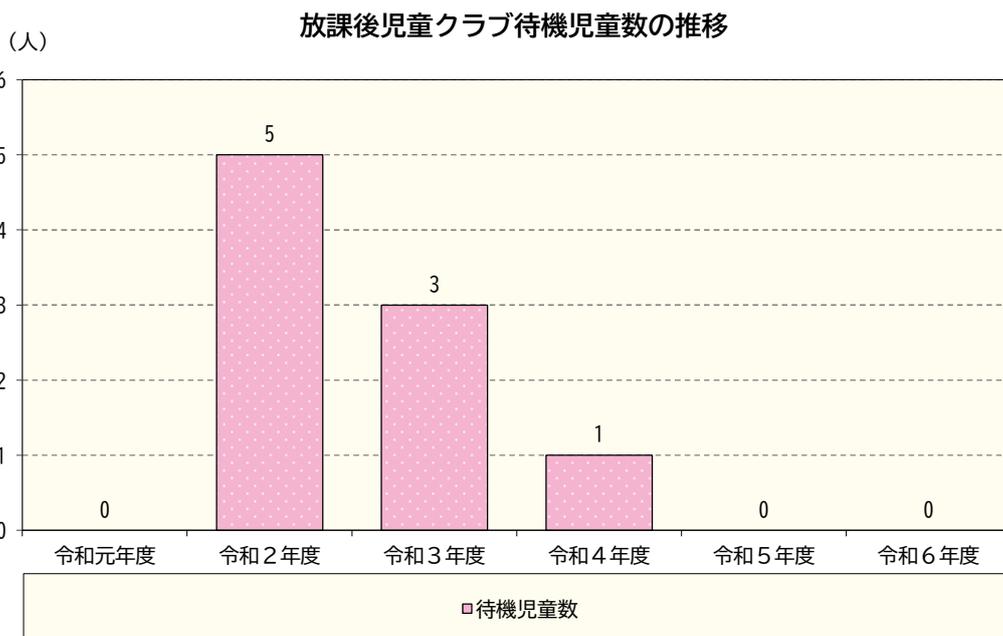
本市の放課後児童クラブ登録児童数は、増減を繰り返しながらおおむね横ばいで推移しており、令和6年度では1,384人となっています。



資料：子育て支援課（各年度4月1日現在）

⑦ 放課後児童クラブ待機児童数の推移

本市の放課後児童クラブ待機児童数は、令和2年度の5人以降減少傾向にあり、令和6年度では0人となっています。



資料：子育て支援課（各年度5月1日現在）

2. 教育・保育施設の状況

(1) 幼稚園・保育所等の状況

① 保育所

令和6年4月の施設数は公立保育所7施設、民間保育所14施設となっています。

■ 保育所の概況

(単位：園・人)

	総数		公立		民間		入所人員			充足率	
	施設数	定員	施設数	定員	施設数	定員	総数	3歳未満	3歳		4歳以上
R2年度	20	2,113	7	579	13	1,534	1,861	696	367	798	88.1%
R3年度	20	2,112	7	579	13	1,533	1,775	684	322	769	84.0%
R4年度	20	2,110	7	579	13	1,531	1,707	674	346	689	80.9%
R5年度	21	2,100	7	579	14	1,521	1,634	629	333	672	77.8%
R6年度	21	2,090	7	579	14	1,511	1,614	595	333	686	77.2%

資料：保育課（各年4月1日現在）

② 認定こども園

令和6年4月の施設数は6施設で、内訳は幼稚園型認定こども園2施設、幼保連携型認定こども園4施設となっています。

■ 認定こども園の概況

(単位：園・人)

	総数		入所人員		充足率
	施設数	定員	総数	3歳未満	
R2年度	4	665	614	48	92.3%
R3年度	5	705	646	55	91.6%
R4年度	5	705	615	61	87.2%
R5年度	5	705	582	65	82.6%
R6年度	6	833	650	78	78.0%

資料：保育課（各年4月1日現在）

③ 地域型保育事業

令和6年4月の施設数は6施設で、内訳は小規模保育施設4施設、事業所内保育施設2施設となっています。

■ 地域型保育事業施設の概況

(単位：園・人)

	総数		入所人員		充足率
	施設数	定員	総数	3歳未満	
R2年度	6	106	75	75	70.8%
R3年度	6	92	75	75	81.5%
R4年度	6	92	71	71	77.2%
R5年度	6	92	70	70	76.1%
R6年度	6	92	70	70	76.1%

資料：保育課（各年4月1日現在）



④ 幼稚園

認定こども園への移行で施設数が減り、令和6年4月の施設数は2施設となっています。

■ 幼稚園の概況 (単位：人)

	総数		入所人員		充足率
	施設数	定員	施設数	定員	
R2年度	4	410	352	85.9%	
R3年度	3	365	291	79.7%	
R4年度	3	345	264	76.5%	
R5年度	3	330	236	71.5%	
R6年度	2	210	142	67.6%	

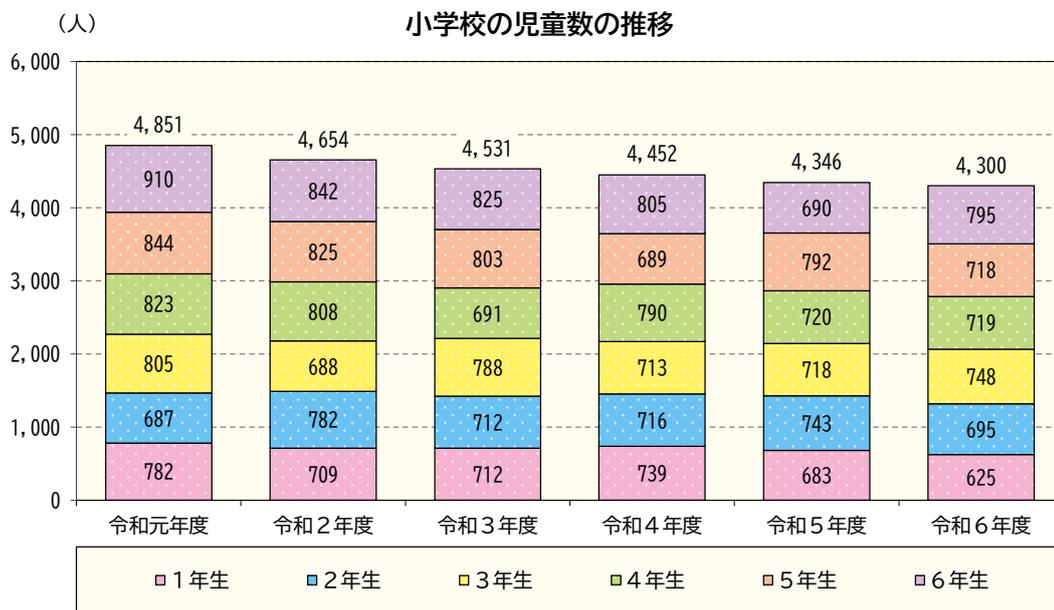
資料：保育課（各年4月1日現在）



(2) 小・中学校の状況

① 小学校

令和6年4月現在で、24の小学校があります。児童数は年々減少しており、令和元年度から令和6年度では551人の減少となっています。

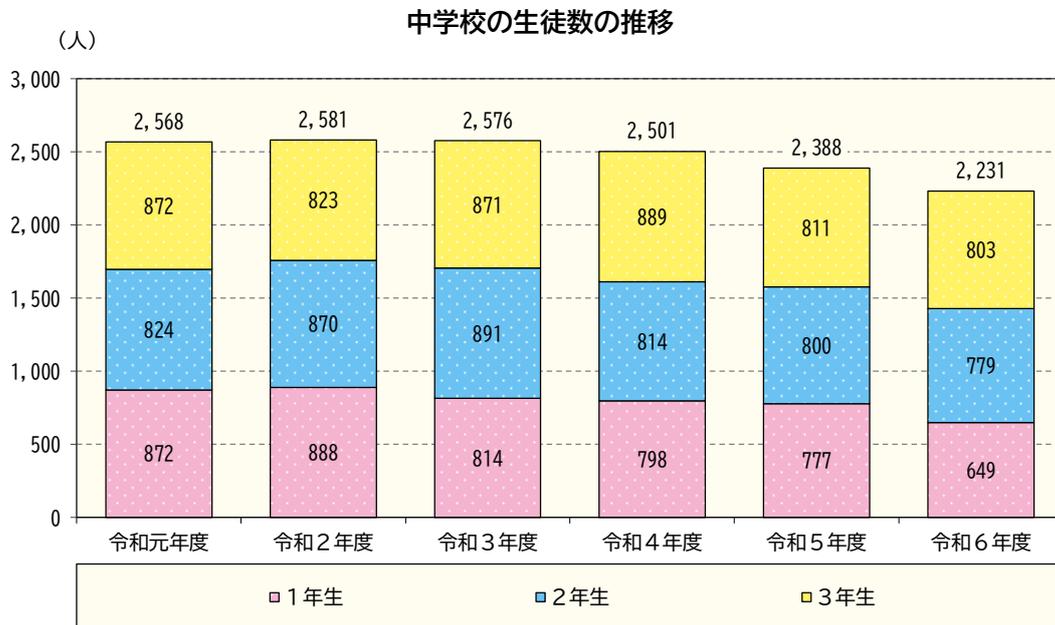


	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
小学4～6年生 (高学年)	2,274	2,179	2,212	2,168	2,144	2,068
小学1～3年生 (低学年)	2,577	2,475	2,319	2,284	2,202	2,232

資料：鹿沼市教育委員会調（各年5月1日現在）

② 中学校

令和6年4月現在で、10の中学校があります。生徒数は年々減少しており、令和元年度から令和6年度では337人の減少となっています。



資料：鹿沼市教育委員会調（各年5月1日現在）



3. ニーズ調査とアンケート調査の概要

■ 調査の目的

本計画の策定に当たり、市民の意見等を把握するため、ニーズ調査とアンケート調査を実施しました。

■ 調査期間

- | | |
|--------------------|-----------------------------|
| (1) 子育てニーズ調査 | 令和6年2月22日(木) ~ 令和6年3月11日(月) |
| (2) 子どもの生活実態等調査 | 令和6年2月22日(木) ~ 令和6年3月11日(月) |
| (3) こども・若者調査 | 令和6年2月22日(木) ~ 令和6年3月11日(月) |
| (4) 若者の生活や意識に関する調査 | 令和6年11月中旬~下旬 |
| (5) 婚活に関する調査 | 令和6年10月27日(日) |

■ 調査対象者

鹿沼市内に在住の、未就学児の保護者に調査依頼書を郵送し、小学5年生、中学2年生の児童とその保護者には学校にて配布しました。また、無作為に抽出した15歳以上40歳未満のこどもがいない方へ調査依頼書を郵送しました。

若者の生活や意識に関する調査では、市内の若者で組織する「20祭実行委員会」、「鹿沼かえる組」、「k a v y (かぬまボランティアユース)」それぞれに調査票を配布しました。婚活に関する調査では婚活イベント開催時に参加者へ配布しました。

■ 回収結果

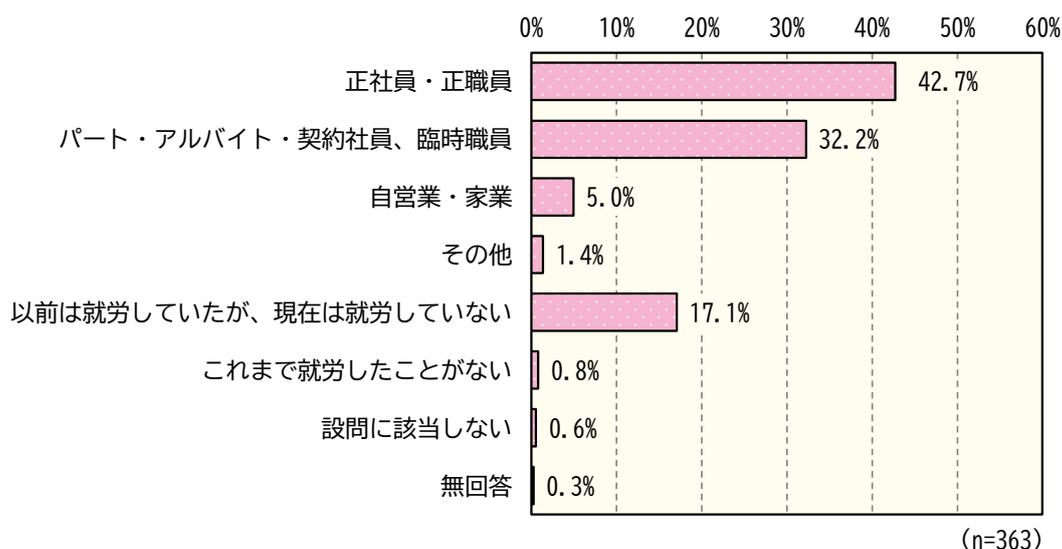
調査名	対象	配布数	回収数	回収率
子育てニーズ調査	未就学児の保護者	800件	366件	45.8%
子どもの生活実態等調査	小学5年生	793件	172件	21.7%
	保護者 (小学5年生)	793件	119件	15.0%
	中学2年生	803件	300件	37.4%
	保護者 (中学2年生)	803件	126件	15.7%
こども・若者調査	若者	800件	154件	19.3%
若者の生活や意識に関する調査	中学生・高校生及び 20代の若者	135件	58件	43.0%
婚活に関する調査	婚活イベント参加者	23件	17件	73.9%
計		4,950件	1,312件	26.5%

(1) 子育てニーズ調査結果の概要

対象	配布数	回収数	回収率
未就学児の保護者	800 件	366 件	45.8%

① 母親の就労状況

母親の就労状況については、「正社員・正職員」が42.7%と最も多く、次いで、「パート・アルバイト・契約社員、臨時職員」が32.2%、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が17.1%となっています。

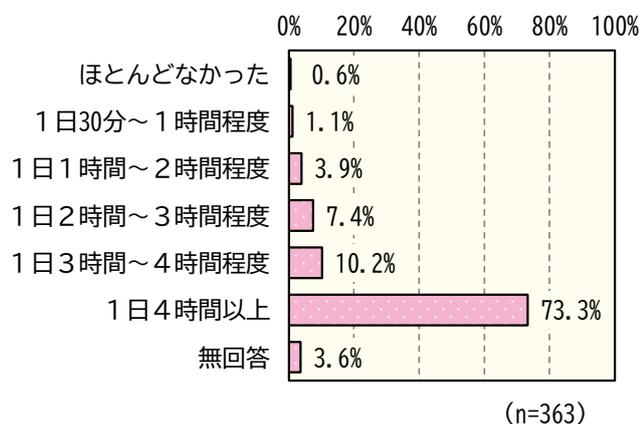


② 家事・育児時間

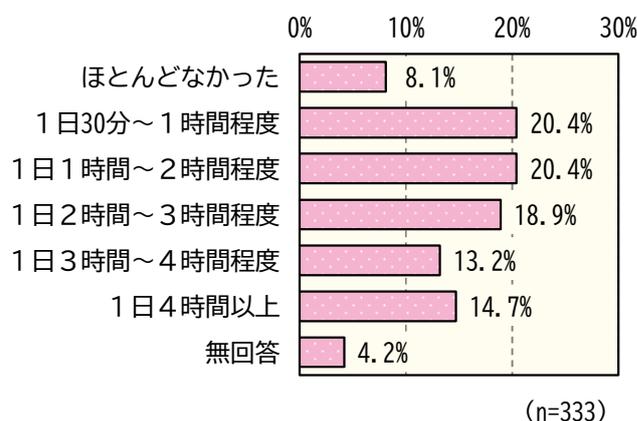
お子さんが小学校に就学する前までの母親の家事・育児時間については、「1日4時間以上」が73.3%と最も多く、次いで、「1日3時間～4時間程度」が10.2%となっています。

父親の家事・育児時間については、「1日30分～1時間程度」、「1日1時間～2時間程度」がともに20.4%と最も多くなっています。

■ 母親

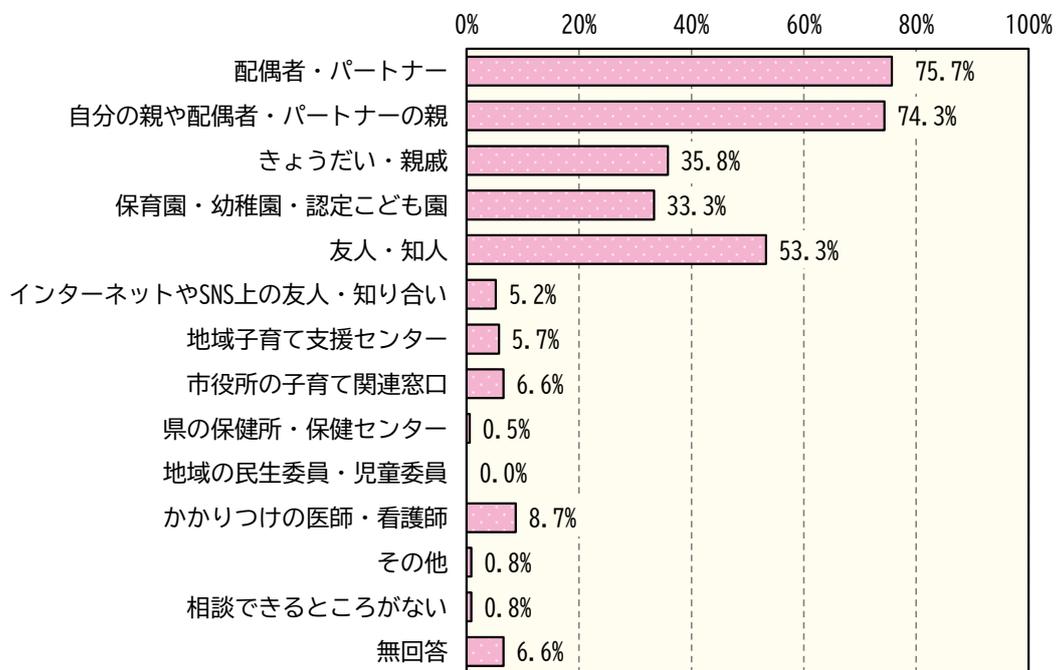


■ 父親



③ 気軽に相談できる人・場所

お子さんの子育てにおいて、気軽に相談できる人・場所については、「配偶者・パートナー」が75.7%と最も多く、次いで、「自分の親や配偶者・パートナーの親」が74.3%、「友人・知人」が53.3%となっています。

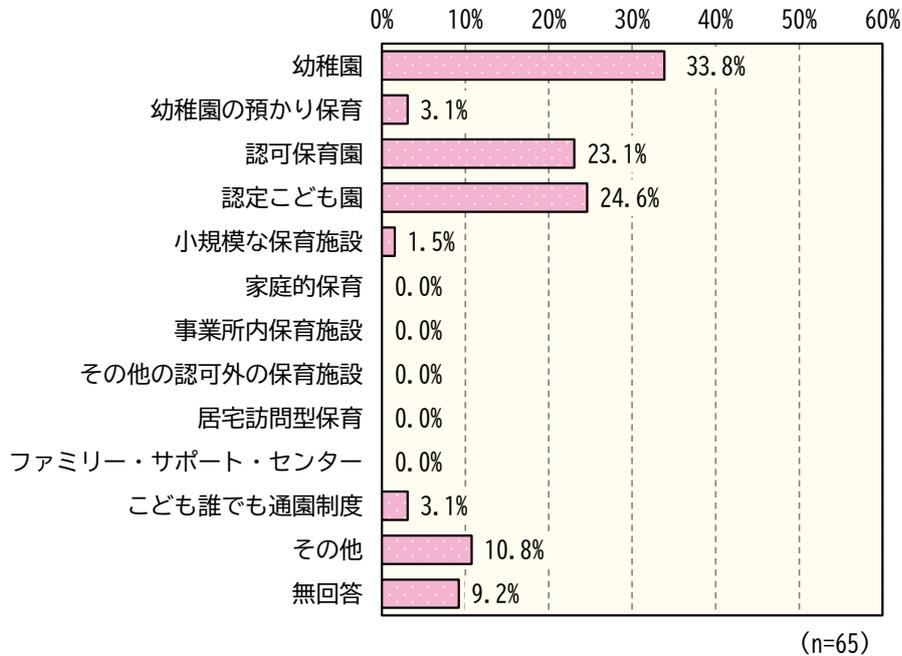


(n=366)



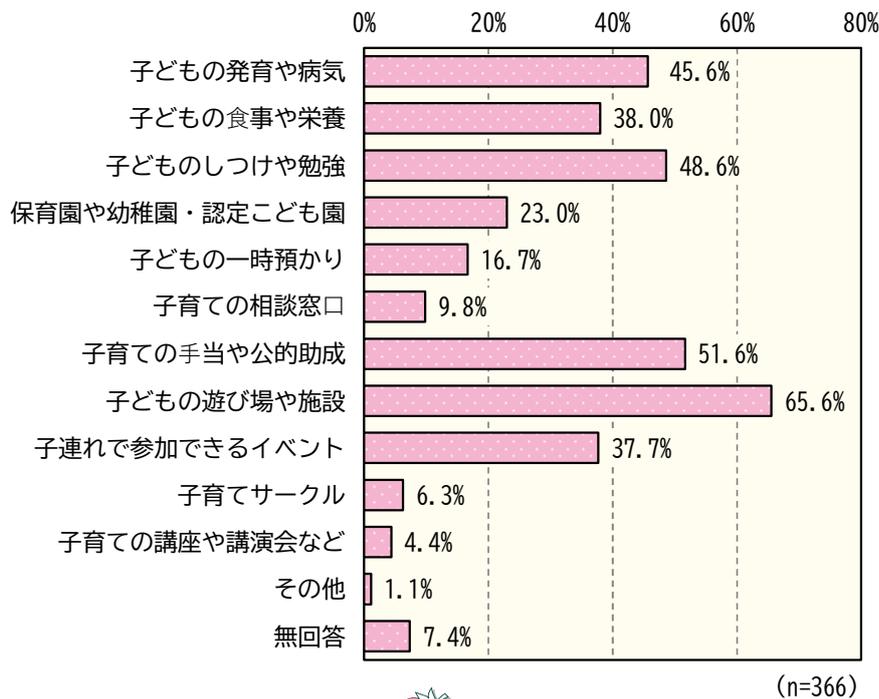
④ 今後利用したい事業

今後「定期的に」利用したいお子さんの平日の教育・保育の事業として、第一希望では、「幼稚園（通常の就園時間の利用）」が33.8%と最も多く、次いで、「認定こども園（幼稚園と保育施設の機能を併せ持つ施設）」が24.6%、「認可保育園（国が定める最低基準に適合した施設で都道府県等の認可を受けた定員20人以上のもの）」が23.1%となっています。



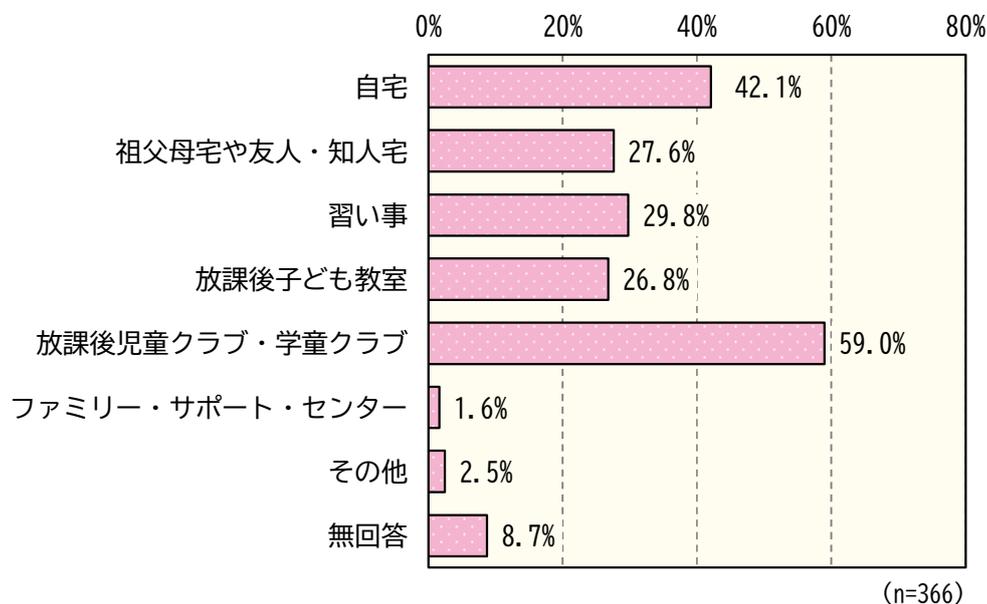
⑤ 子育てについて得たい情報

現在子育てについてどんな情報を得たいと思っているかについては、「子どもの遊び場や施設」が65.6%と最も多く、次いで、「子育ての手当や公的助成」が51.6%、「子どものしつけや勉強」が48.6%となっています。



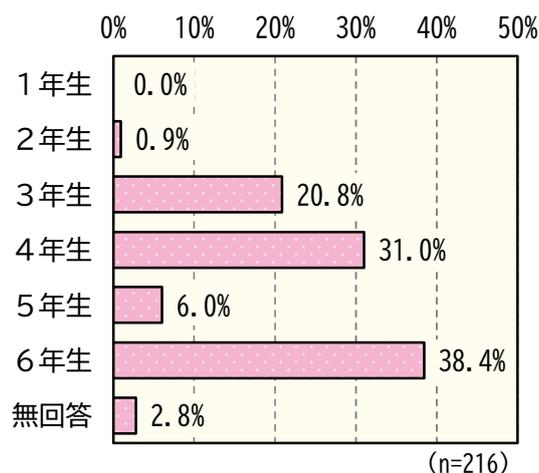
⑥ 小学校就学後の放課後（平日の小学校終了後）の時間の過ごし方

放課後の過ごし方については、「放課後児童クラブ・学童クラブ」が59.0%と最も多く、次いで、「自宅」が42.1%、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が29.8%となっています。



⑦ 放課後児童クラブ・学童クラブの利用希望

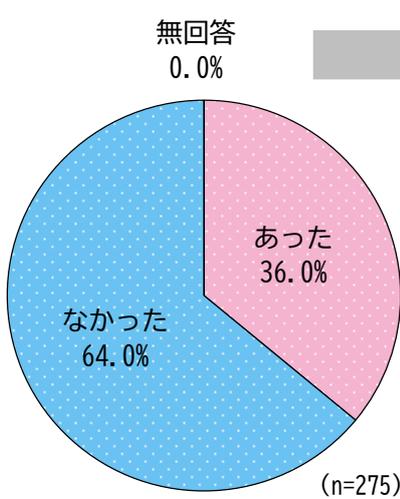
小学校の何年生まで放課後児童クラブ・学童クラブを利用させたいと思うかについては、「6年生」が38.4%と最も多く、次いで、「4年生」が31.0%、「3年生」が20.8%となっています。



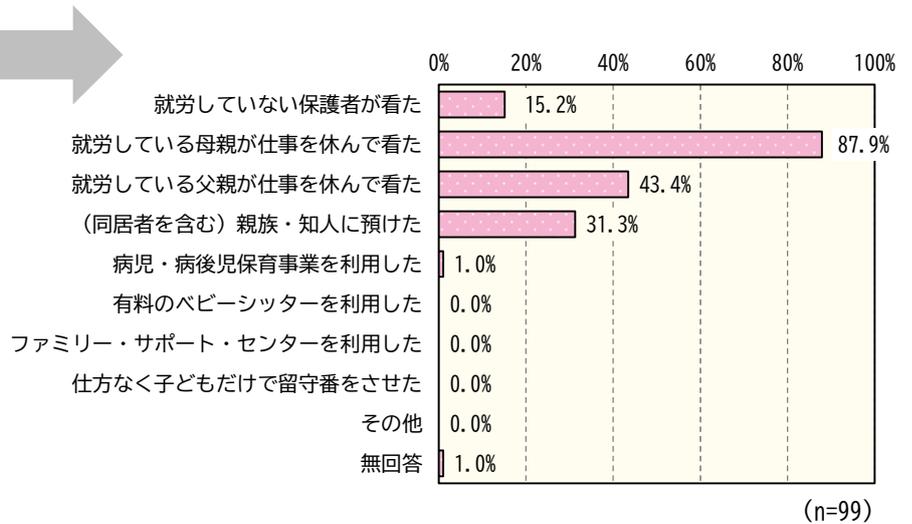
⑧ 子どもの病気やケガの際の対応

この1年間に病気やケガのために保育園や幼稚園などの通常の教育・保育事業を利用できずに特別な対応を取る必要があったかについては、「あった」が36.0%となっており、対応方法については、「就労している母親が仕事を休んで見た」が87.9%と最も多く、次いで、「就労している父親が仕事を休んで見た」が43.4%、「(同居者を含む)親族・知人に預けた」が31.3%となっています。

■ 子どもが病気やけがで教育・保育事業が利用できなかったことの有無

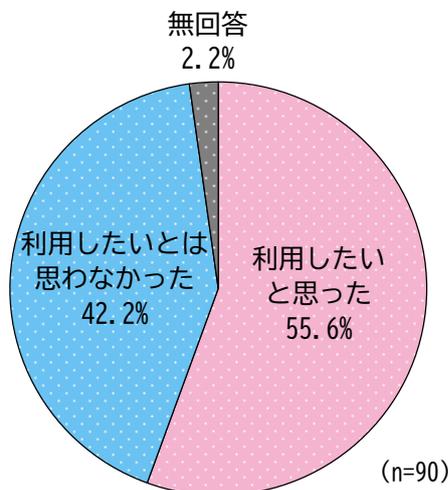


■ 利用できなかった場合の対応方法



仕事を休んで見たときに、できれば「病児・病後児保育事業」を利用したいと思ったかについては、「利用したいと思った」が55.6%に対し、「利用したいとは思わなかった」が42.2%となっています。

■ 病児・病後児保育施設等の利用意向



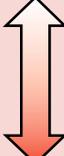
(2) 子どもの生活実態等調査結果の概要

対象	配布数	回収数	回収率
小学5年生	793件	172件	21.7%
保護者 (小学5年生)	793件	119件	15.0%
中学2年生	803件	300件	37.4%
保護者 (中学2年生)	803件	126件	15.7%

≪ 困窮度の分類 ≫

本調査の回答結果から、鹿沼市の等価可処分所得^{※1}の中央値^{※2}は275万円となり、厚生労働省が実施した国民生活基礎調査での基準で捉えると、相対的貧困率^{※3}は12.8%と推定されます。

■ 困窮度の分類

区分		基準	割合
困窮度 が高い  困窮度 が低い	困窮度Ⅰ	等価可処分所得の中央値（275万円）の50%未満	12.8%
	困窮度Ⅱ	等価可処分所得の中央値（275万円）の50%以上60%未満	4.5%
	困窮度Ⅲ	等価可処分所得の中央値（275万円）未満から60%以上	27.2%
	中央値以上	等価可処分所得の中央値（275万円）以上	55.5%

～相対的貧困と相対的貧困率について～

相対的貧困とは、国や地域社会において、平均的な生活水準よりも相対的に低い所得水準にある状況をいい、厚生労働省が実施している国民生活基礎調査においては、一定基準（貧困線^{※4}）を下回る所得水準の者の割合を相対的貧困率とし、等価可処分所得をもとに算出されます。

※1 等価可処分所得：可処分所得^{※5}を世帯人数で調整した所得（世帯の可処分所得を世帯人数の平方根で割ったもの）です。

※2 中央値：等価可処分所得について、低い順に並べたときの真ん中の数値です。

※3 相対的貧困率：等価可処分所得が貧困線に満たない者の割合です。

※4 貧困線：中央値の半分の額です。

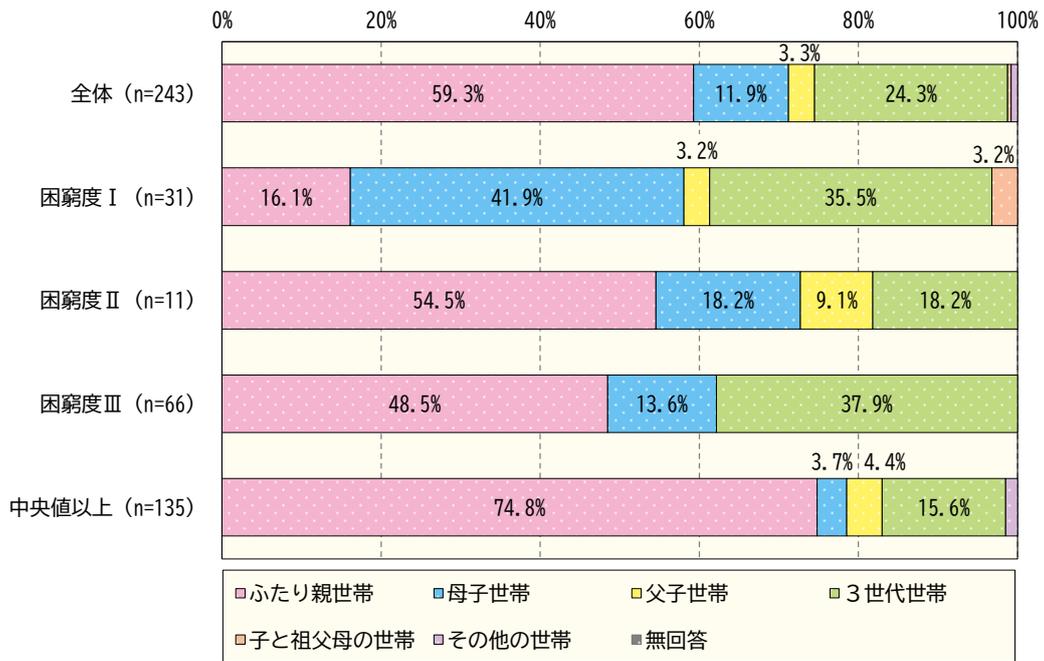
※5 可処分所得：収入から税金や社会保険料などを差し引いたものです。本市では、収入（手当や養育費などを含む）で計算しています。

① 困窮度と世帯構成

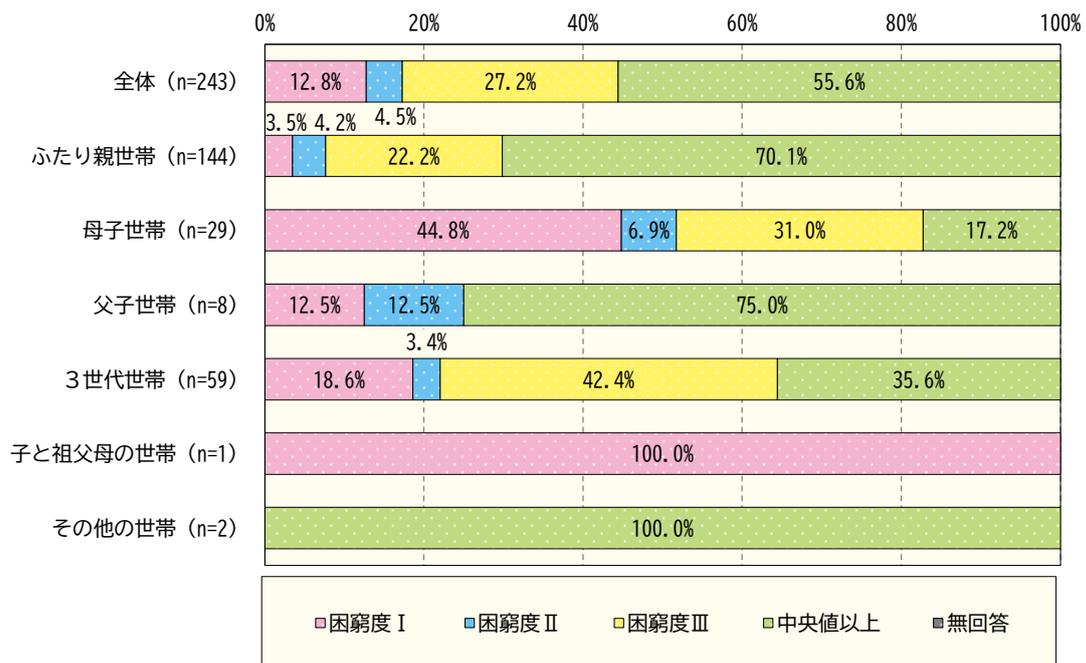
困窮度Ⅰにおける世帯構成について、母子世帯が最も多くの割合を占めていますが、困窮度Ⅱ、困窮度Ⅲ、中央値以上の区分ではふたり親世帯が最も多くの割合を占めており、母子世帯は2割未満となっています。

また、母子世帯では約4割半が困窮度Ⅰとなっています。

■ 困窮度別の世帯構成



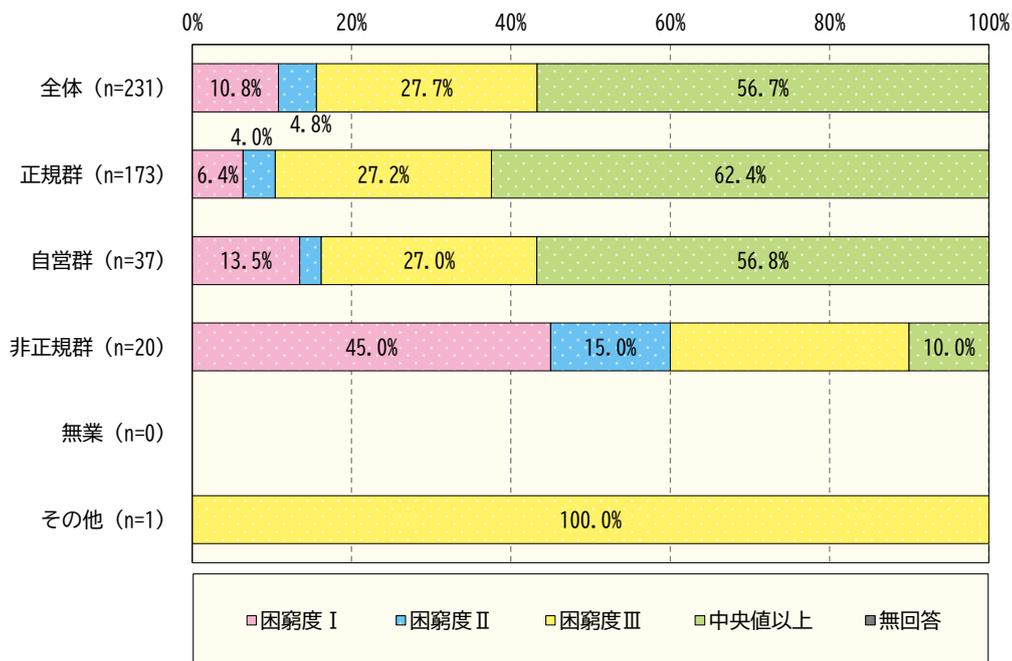
■ 世帯構成別の困窮度



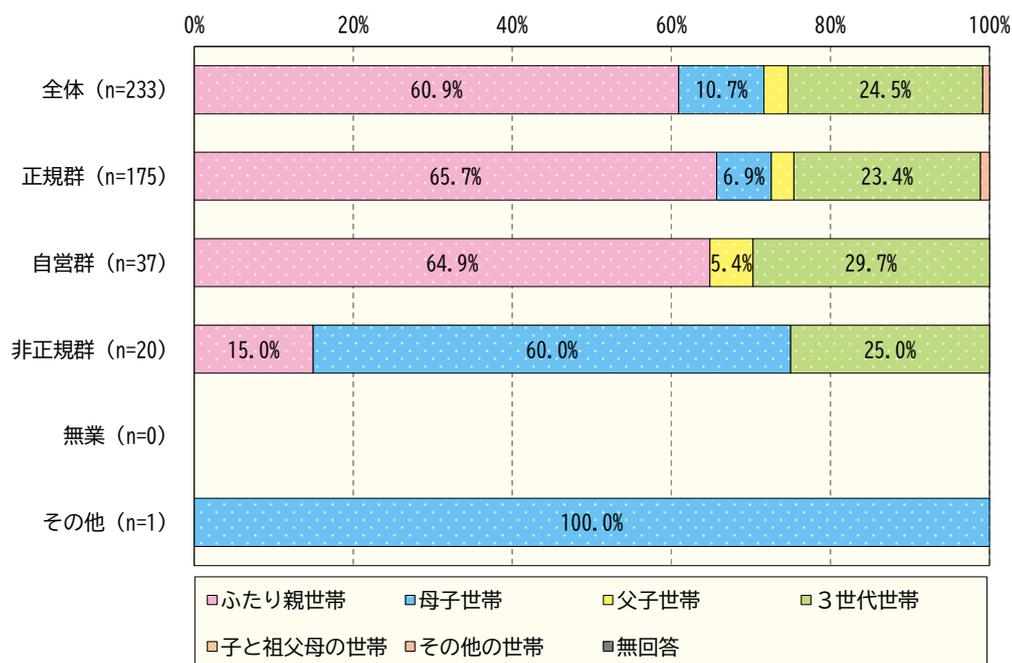
② 就労状況と困窮度、世帯構成

困窮度 I における就労状況別では非正規群が 4.5 割であり、非正規群に占める母子世帯の割合は 6 割となっています。

■ 就労状況別の困窮度



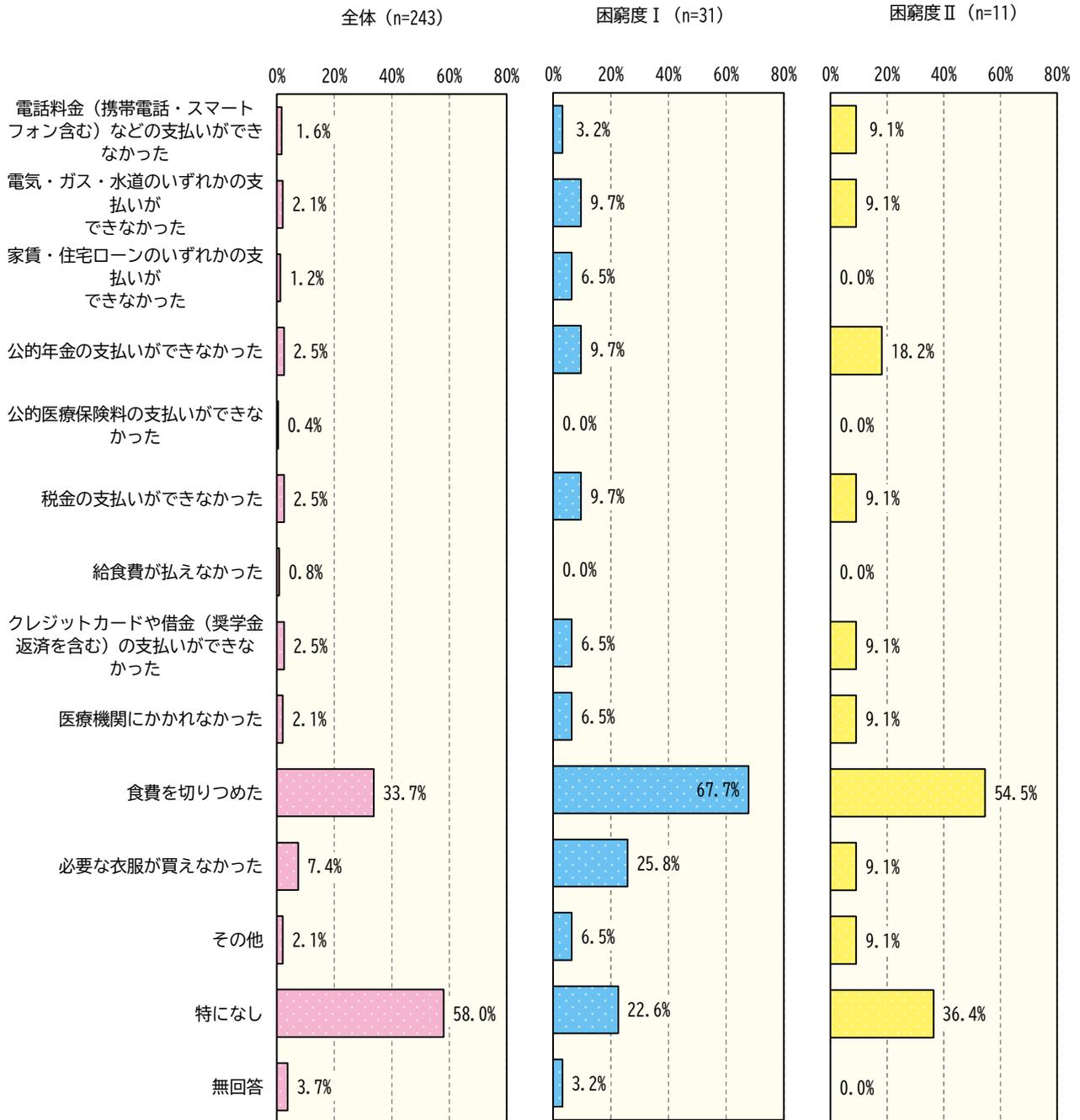
■ 就労状況別の世帯構成



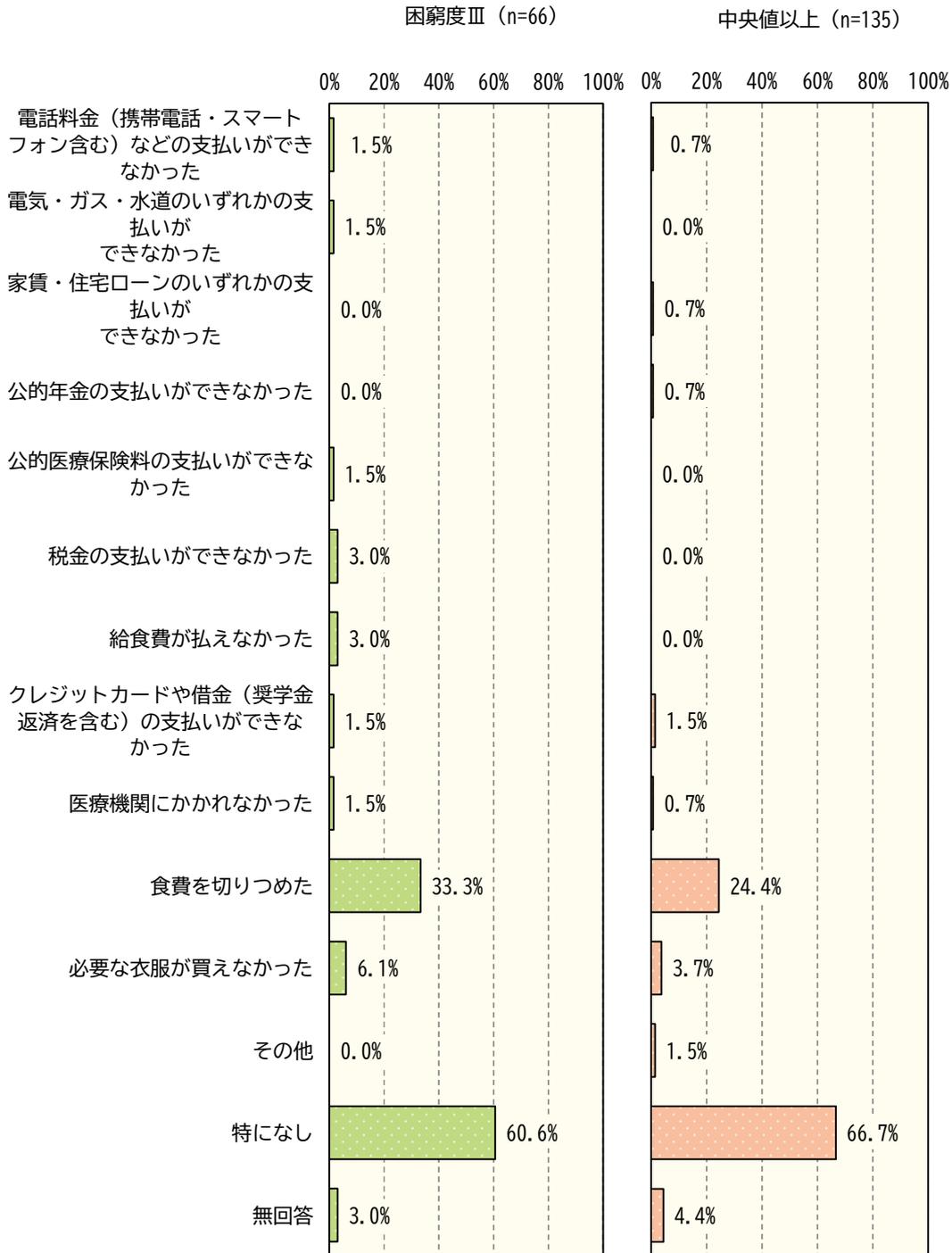
③ 困窮度と経済的な理由によって生じる事項

経済的な事由では「食事を切りつめた」割合が最も多く、中央値以上の区分では3割未満ですが、困窮度が高まるにつれて割合が増加し、困窮度Ⅰでは約7割を占めています。

■ 困窮度と経済的な理由によって生じる事項（全体・困窮度Ⅰ・困窮度Ⅱ）



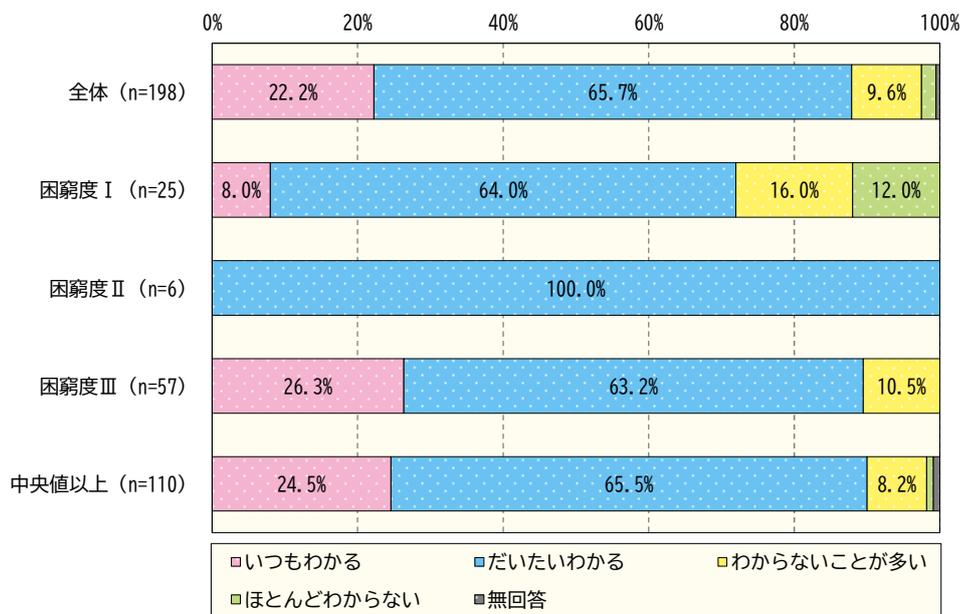
■ 困窮度と経済的な理由によって生じる事項（困窮度Ⅲ・中央値以上）



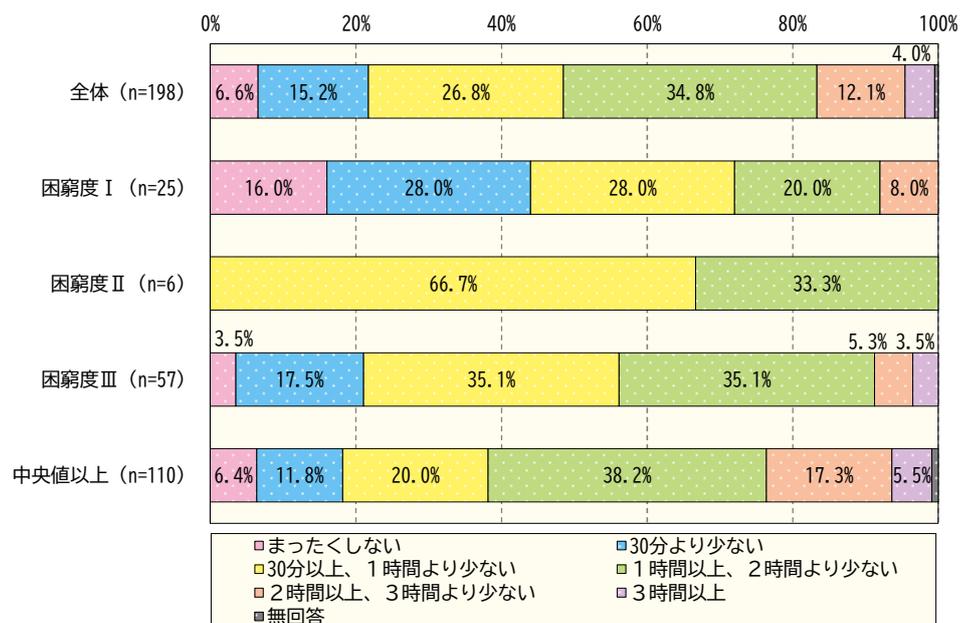
④ 困窮度と勉強の理解度、勉強時間

困窮度別に見た勉強の理解度について、困窮度Ⅰでは「わからないことが多い」「ほとんどわからない」の合計が約3割であり、他の区分と比較して割合が高く、また平日の学校以外の勉強時間についても「まったくしない」が約1.5割を占め、最も高くなっています。

■ 困窮度別の勉強の理解度



■ 困窮度別の平日1日当たりの学校以外の勉強時間

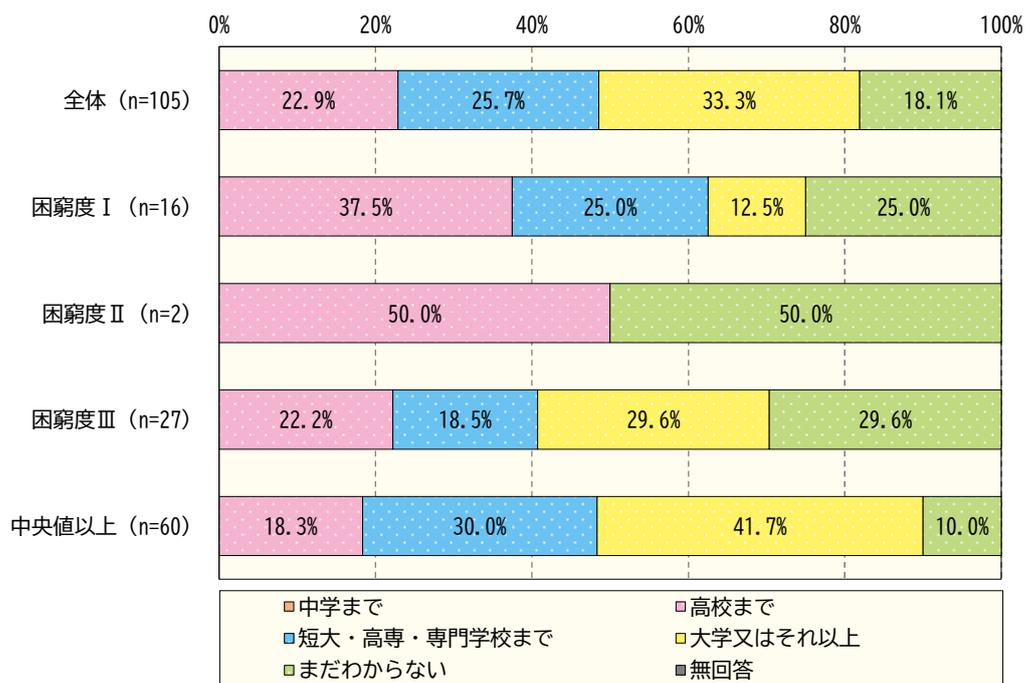


⑤ 困窮度と将来の進学希望

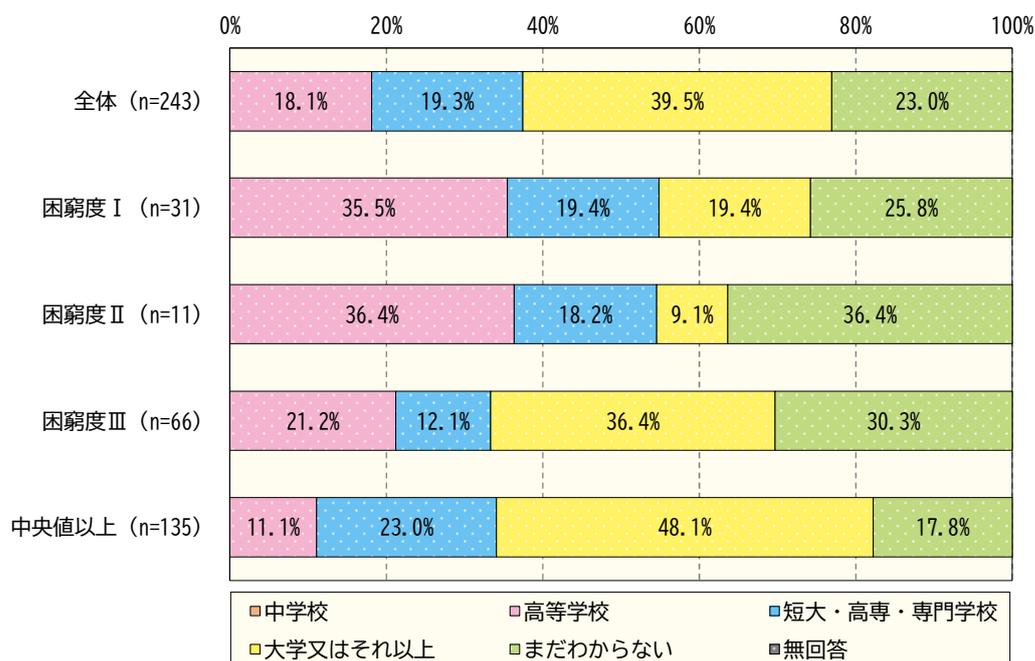
将来の進学希望について、困窮度Ⅰでは、「高校まで」が中学2年生、保護者ともに3割以上を占め、最も多くなっています。

一方、中央値以上の区分では、「大学又はそれ以上」が中学2年生、保護者で約4割以上を占め、最も多くなっています。

■ 困窮度別の将来の進学希望（中学2年生）

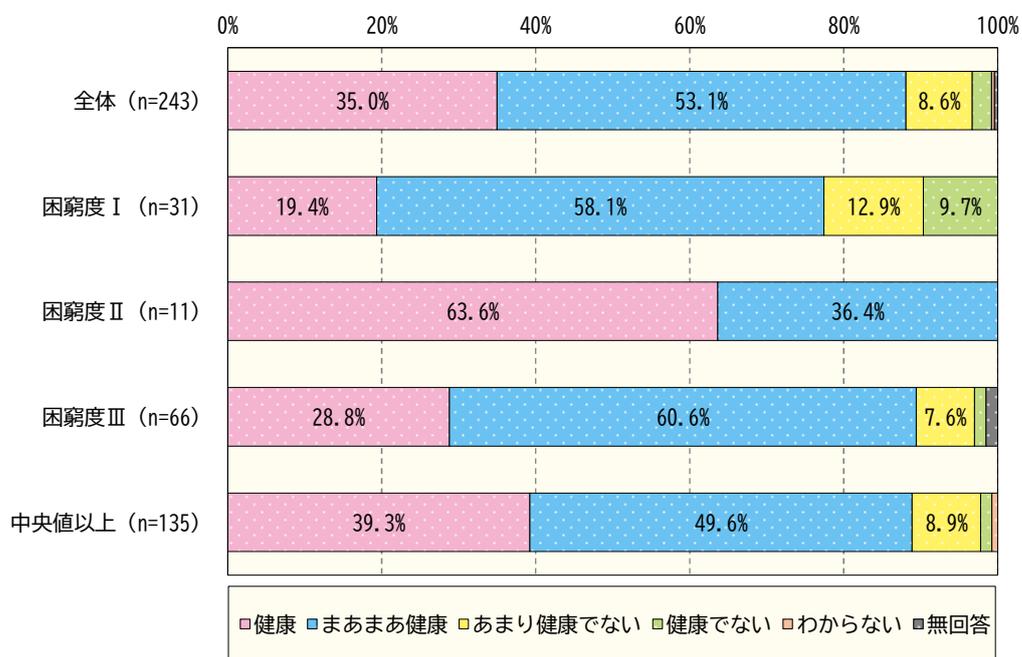


■ 困窮度別の将来の進学希望（保護者）



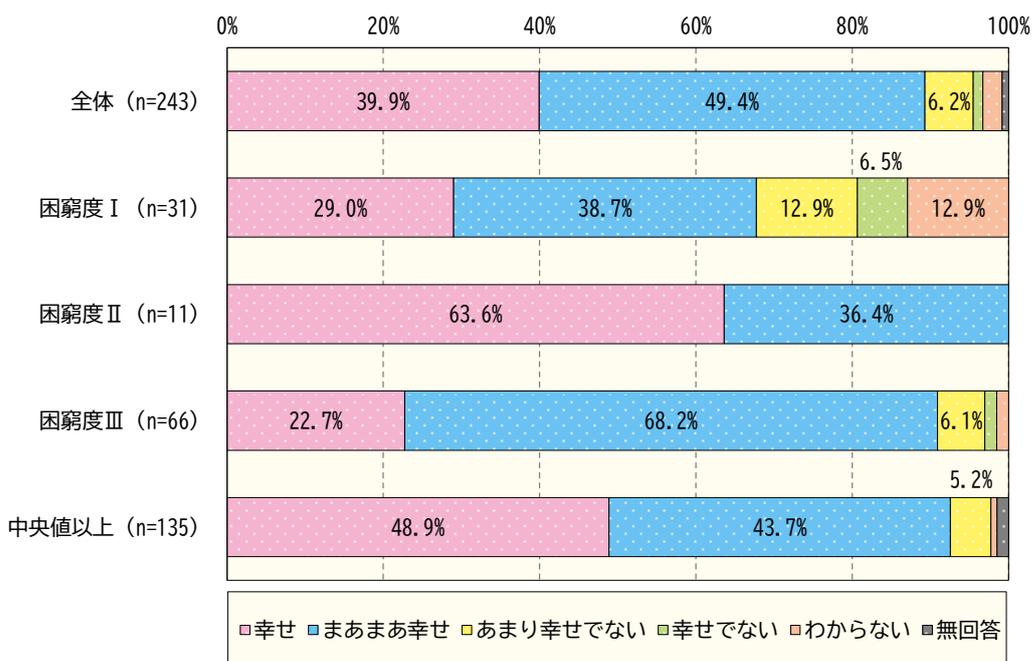
⑥ 困窮度と健康状態

困窮度別に見た保護者の健康状態については、「健康」と「まあまあ健康」の合計が、中央値以上の区分では約9割であり、困窮度Ⅰでは約8割となっています。



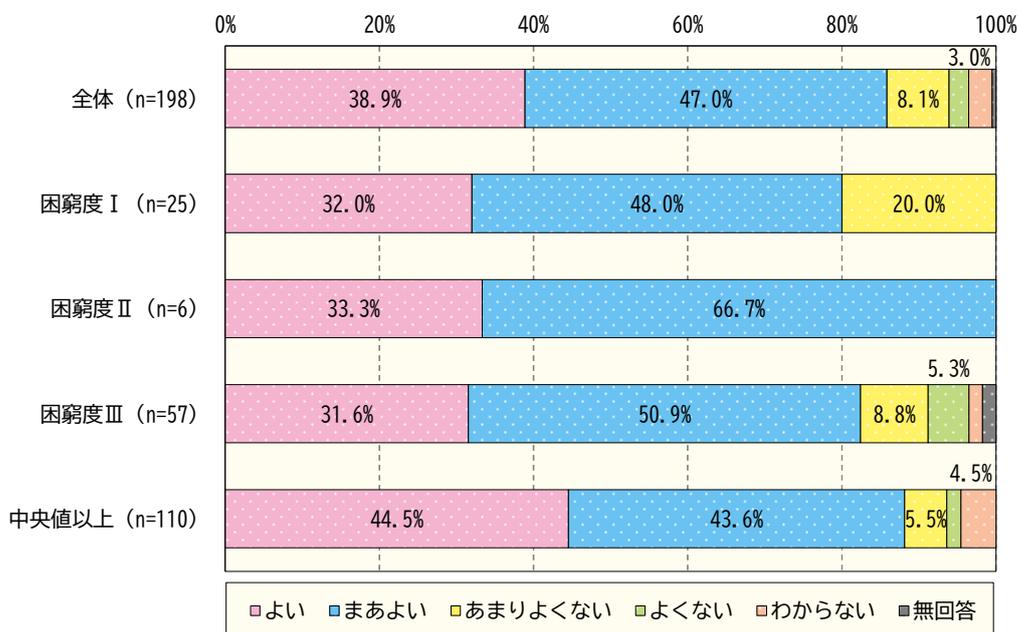
⑦ 困窮度と幸福感

困窮度別に見た保護者の幸福感については、「幸せ」と「まあまあ幸せ」の合計が、中央値以上の区分では9割超であり、困窮度が高まるにつれて減少し、困窮度Ⅰでは約7割となっています。



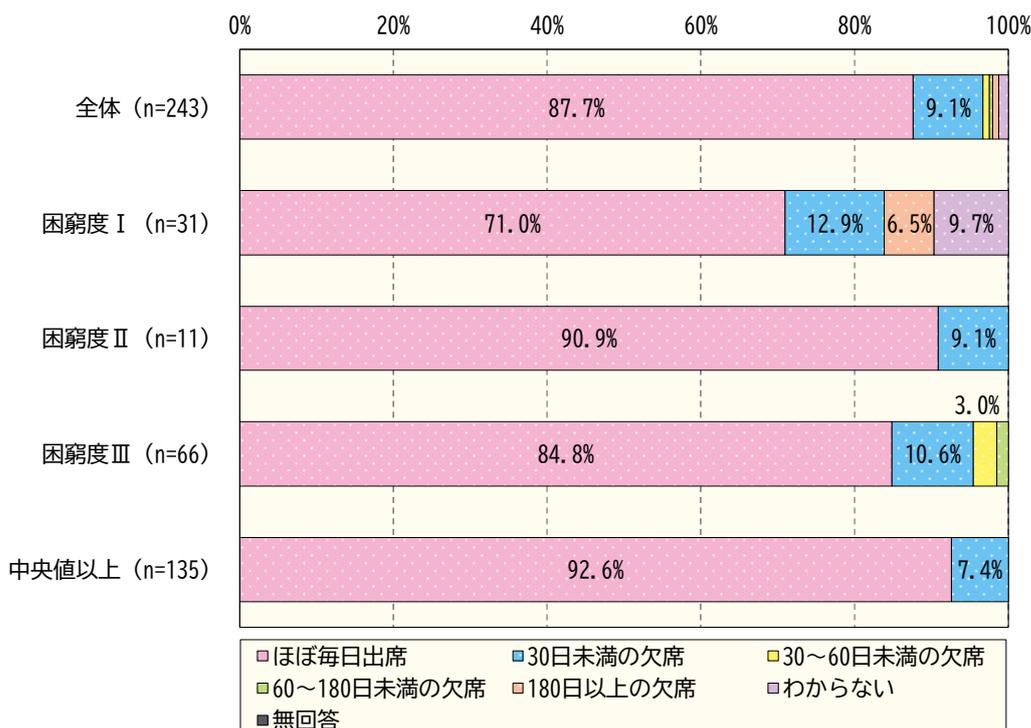
⑧ 困窮度とこどもの心や体の調子

困窮度別に見たこどもの心や体の調子については、「よい」と「まあよい」の合計が、中央値以上の区分では約9割であり、困窮度が高まるにつれて減少し、困窮度Ⅰでは8割となっています。



⑨ 困窮度と学校の出席日数

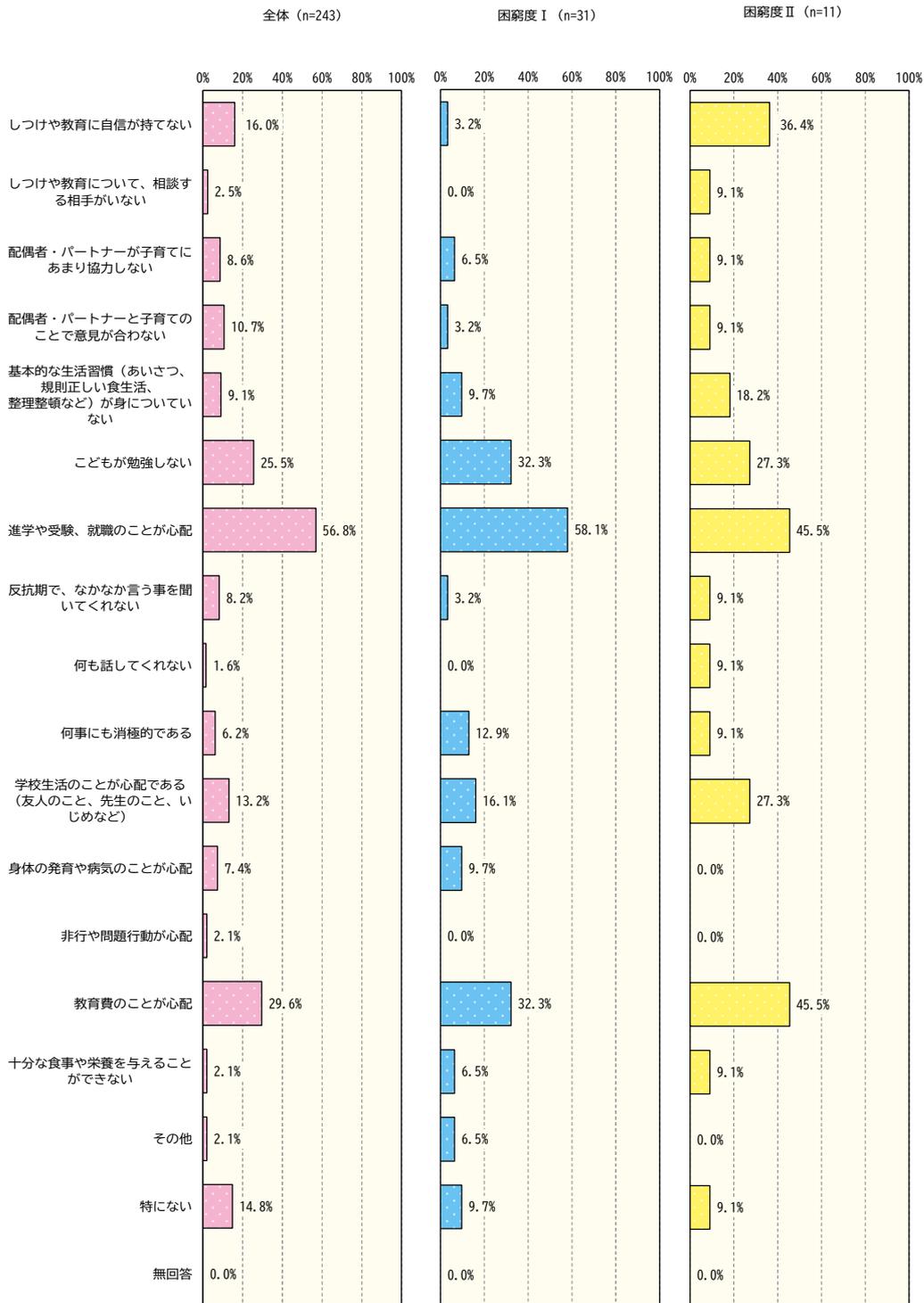
困窮度別に見たこどもの出席日数について、「ほぼ毎日」と「30日未満の欠席」の合計が、中央値以上の区分では10割であり、困窮度Ⅰでは約8割となっています。また、「180日以上の欠席」については、困窮度Ⅰでは6.5%となっています。



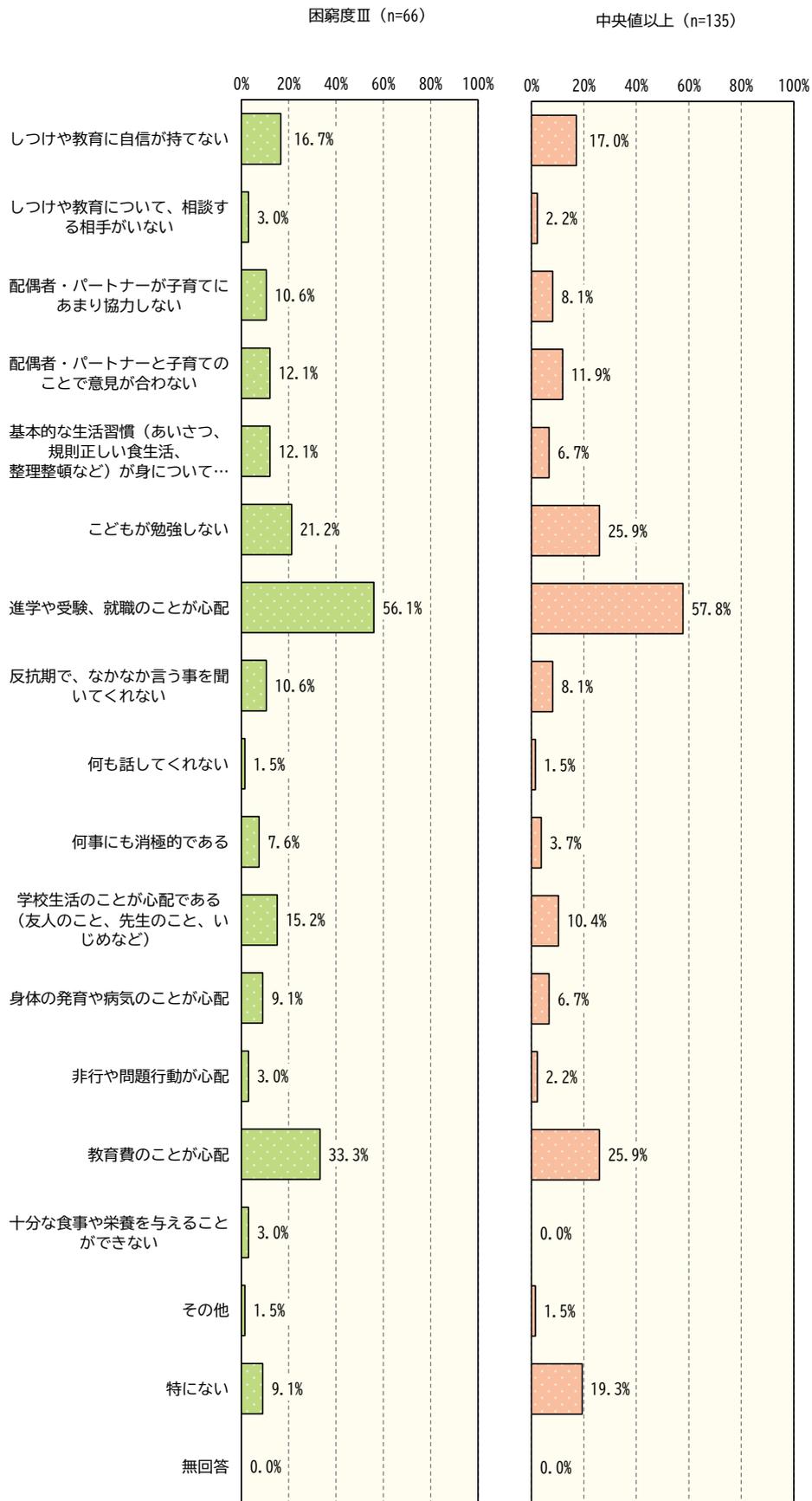
⑩ 困窮度と保護者の悩み

困窮度別に見た、こどもに対する保護者の悩みについては、どの区分でも「進学や受験、就職のことが心配」が約5割となっており、最も割合が高くなっています。次に割合の高い「こどもが勉強しない」「教育費のことが心配」については、中央値以上の区分では約2割半であり、困窮度Ⅰでは3割を超えています。また、「特になし」については、中央値以上の区分では約2割であり、困窮度Ⅰでは約1割となっています。

■ 困窮度別のこどもに対する保護者の悩み（全体・困窮度Ⅰ・困窮度Ⅱ）



■ 困窮度別の子どもに対する保護者の悩み（困窮度Ⅲ・中央値以上）

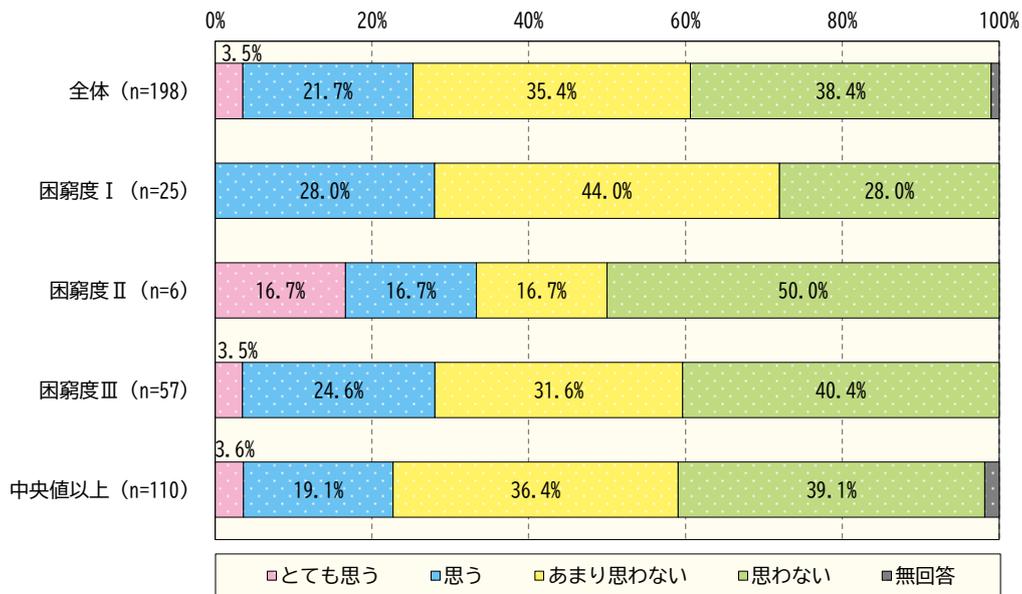


⑪ 困窮度とこどもの孤独感と自己肯定感

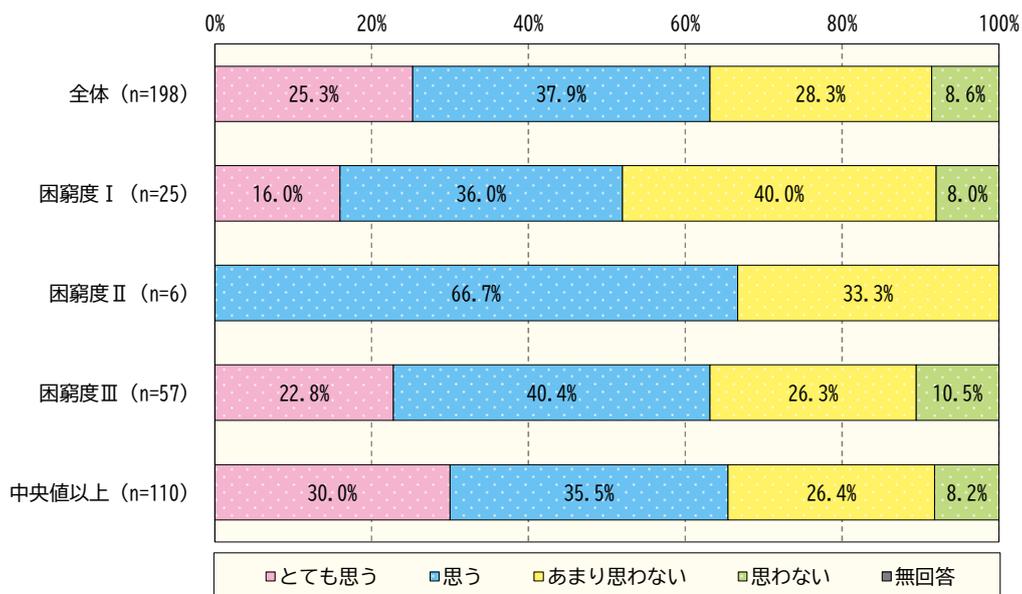
こどもが「孤独を感じることもある」割合について、「とても思う」「思う」の合計が、困窮度Ⅰでは約3割であり、中央値以上の区分では約2割となっています。

また、「自分のことが好きだ」と思う割合について、「あまり思わない」「思わない」の合計が、困窮度Ⅰでは約5割であり、中央値以上の区分では、約3.5割となっています。

■ 困窮度別の孤独感（孤独を感じることもある）



■ 困窮度別の自己肯定感（自分のことが好きだと思うか）



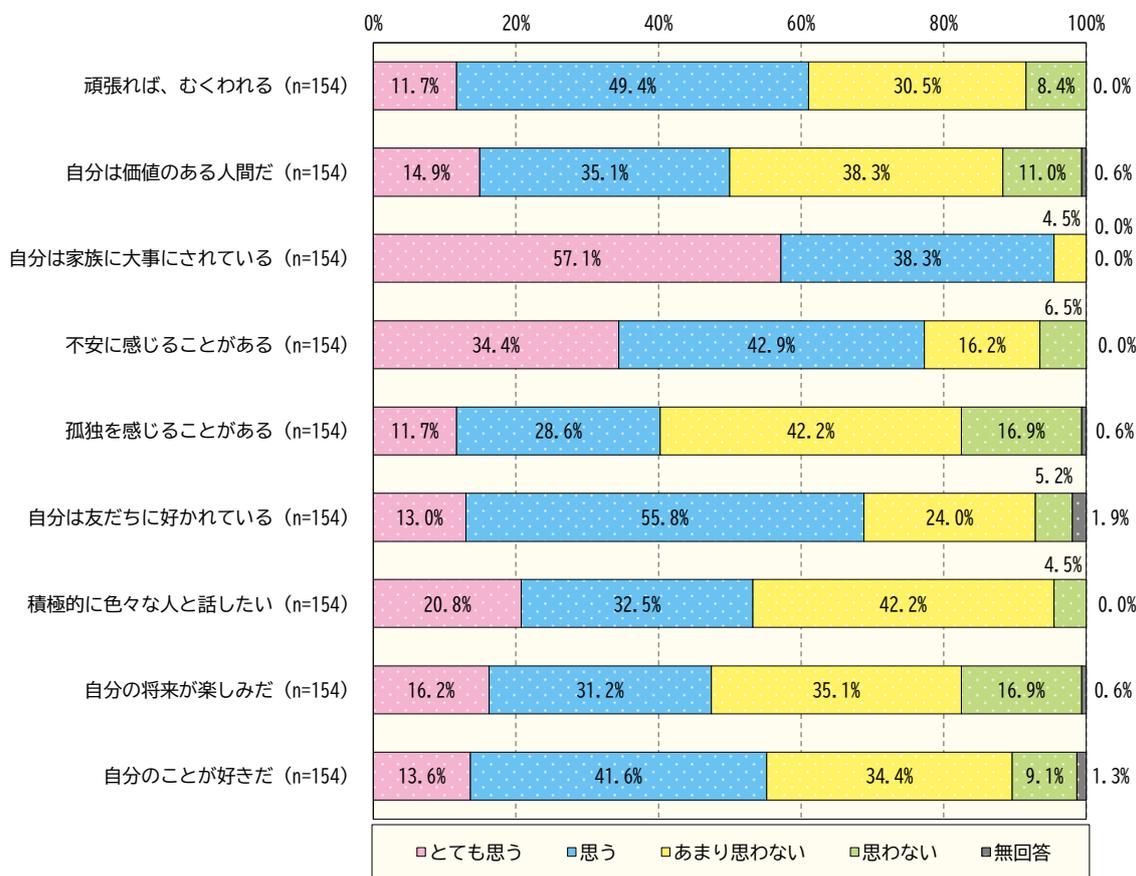
(3) こども・若者調査結果の概要

対象	配布数	回収数	回収率
若者	800 件	154 件	19.3%

① 自身の思いや気持ち

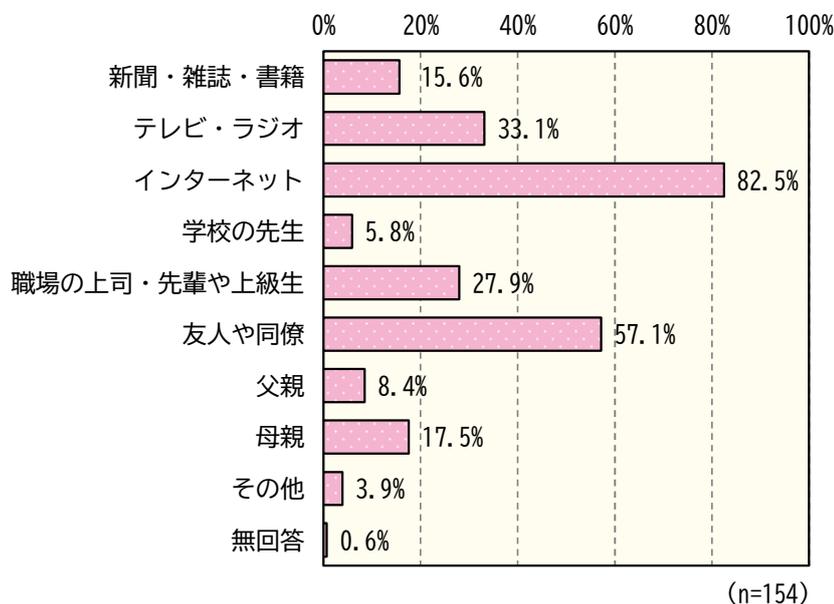
思いや気持ちについて、「とても思う」「思う」を合わせた『思う（計）』が最も多い項目は、【自分は家族に大事にされている】が 95.4%となっており、次いで【不安に感じることもある】が 77.3%となっています。

「あまり思わない」「思わない」を合わせた『思わない（計）』が最も多い項目は、【孤独を感じることもある】が 59.1%となっています。



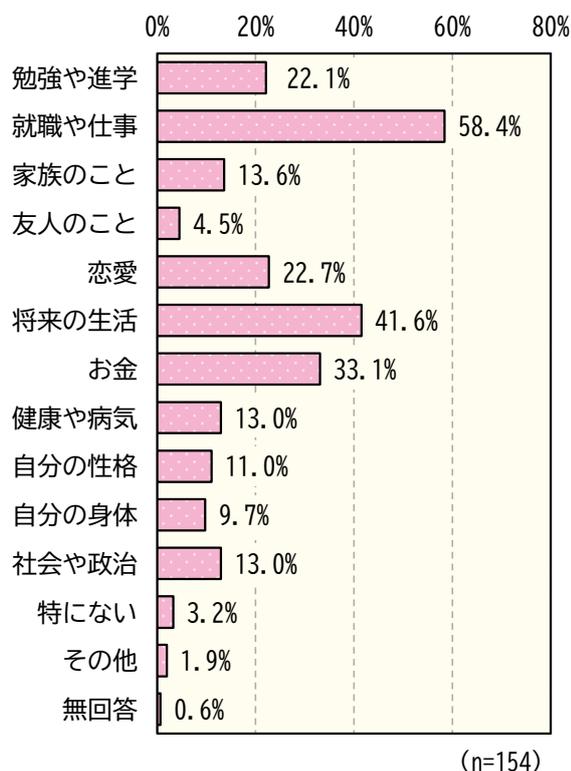
② 日ごろ影響を受けるもの

日ごろ影響を受けるものについては、「インターネット」が82.5%と最も多く、次いで、「友人や同僚」が57.1%、「テレビ・ラジオ」が33.1%となっています。



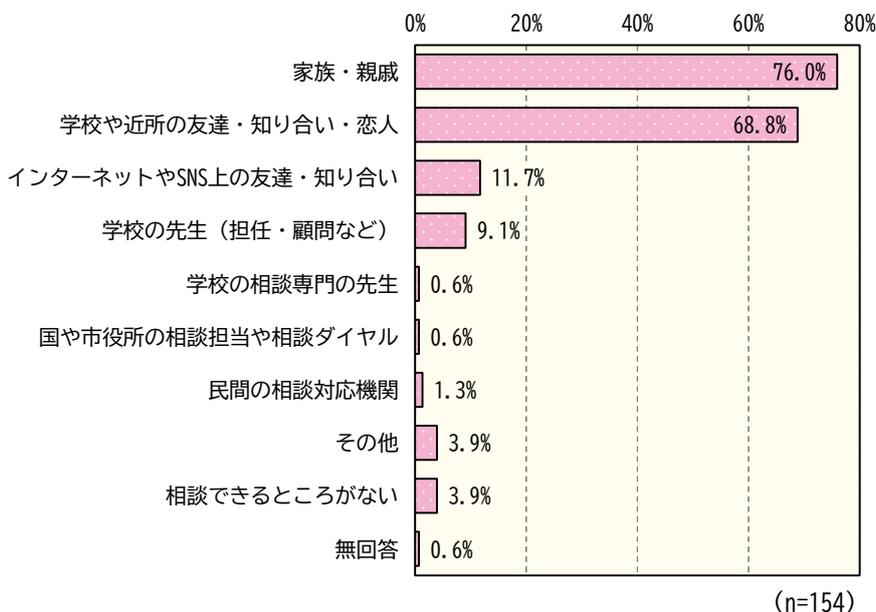
③ 最近の悩みや心配ごと

悩みや心配ごとについては、「就職や仕事」が58.4%と最も多く、次いで、「将来の生活」が41.6%、「お金」が33.1%となっています。



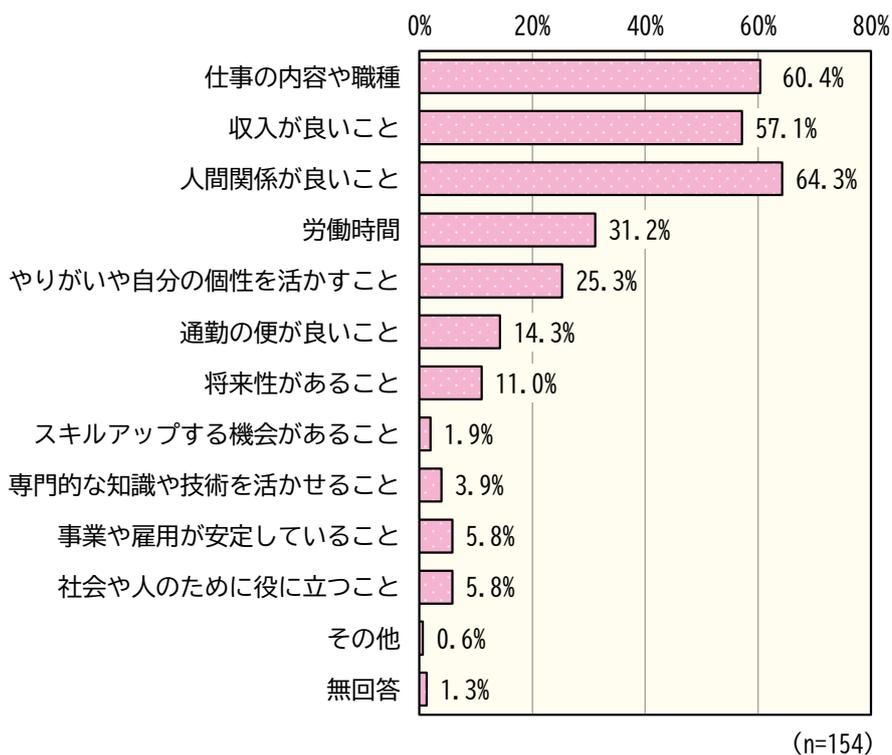
④ 悩みごとを相談できるところ

心配なことや悩みを抱えたときに、相談できるところはどこかについては、「家族・親戚」が76.0%と最も多く、次いで、「学校や近所の友達・知り合い・恋人」が68.8%、「インターネットやSNS上の友達・知り合い」が11.7%となっています。



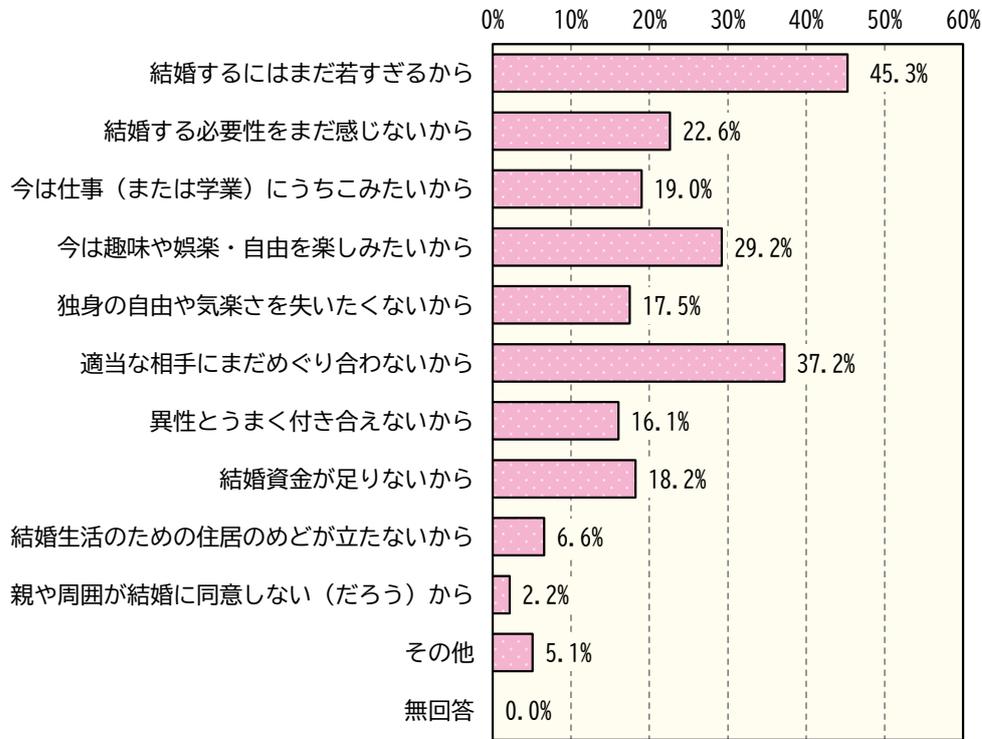
⑤ 仕事を選ぶ際に重視すること

働く上で、又は仕事を選ぶ際に重視することについては、「人間関係が良いこと」が64.3%と最も多く、次いで、「仕事の内容や職種」が60.4%、「収入が良いこと」が57.1%となっています。



⑥ 結婚していない理由

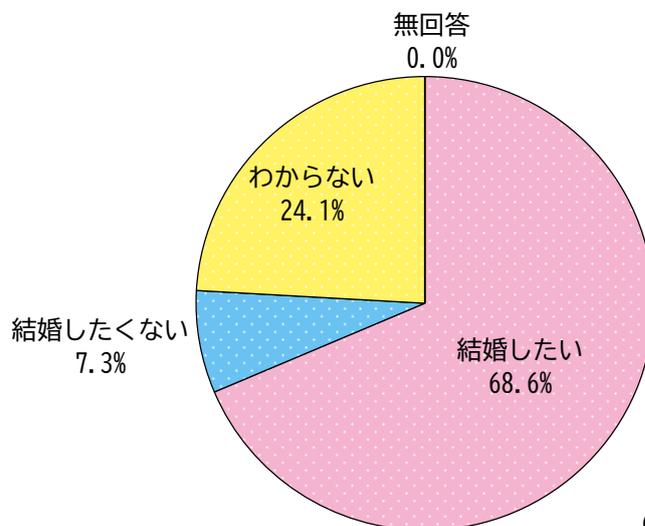
結婚していない理由については、「結婚するにはまだ若すぎるから」が45.3%と最も多く、次いで、「適当な相手にまだめぐり合わないから」が37.2%、「今は趣味や娯楽・自由を楽しみたいから」が29.2%となっています。



(n=137)

⑦ 将来、結婚したいか

将来、結婚したいと思うかについては、「結婚したい」が68.6%と最も多く、次いで、「わからない」が24.1%、「結婚したくない」が7.3%となっています。



(n=137)

(4) 若者の生活や意識に関する調査

対象	配布数	回収数	回収率
中学生・高校生及び 20代の若者	135件	58件	43.0%

※母集団が少ないためグラフを省略しています。

① 性別

回答者の性別は「男」が39.7%、「女」が60.3%となっています。

項目	度数	構成比
男性	23	39.7%
女性	35	60.3%
無回答	0	0.0%
合計	58	100.0%

② 年齢

回答者の年齢は「12～15歳」が6名、「16～20歳」が37名、「21～24歳」が15名となっています。

項目	度数	構成比
12歳	3	5.2%
13歳	1	1.7%
14歳	1	1.7%
15歳	1	1.7%
16歳	6	10.3%
17歳	1	1.7%
18歳	8	13.8%
19歳	11	19.0%
20歳	11	19.0%
21歳	8	13.8%
22歳	4	6.9%
23歳	1	1.7%
24歳	2	3.4%
無回答	0	0.0%
合計	58	100.0%

③ 婚姻状況

回答者の婚姻状況は「独身」が86.2%と最も多くなっています。

項目	度数	構成比
独身（離別、死別により独身となった方を含みます）	50	86.2%
既婚	2	3.4%
無回答	6	10.3%
合計	58	100.0%

④ あなたは現在、交際しているパートナーはいますか。

回答者の現在の交際の有無は「いない」が68.0%、「いる」が30.0%となっています。

項目	度数	構成比
はい	15	30.0%
いいえ	34	68.0%
答えたくない	1	2.0%
回答者数	50	100.0%
非該当	8	
合計	58	

⑤ 鹿沼市で子どもを産み育てたいと考えていますか。

回答者の70.0%が「鹿沼市で子どもを産み育てたい」と回答しています。

項目	度数	構成比
はい	7	70.0%
いいえ	1	10.0%
わからない	2	20.0%
回答者数	10	100.0%
非該当	48	
合計	58	

⑥ 子どもを産み育てる環境として、鹿沼市で不足していると感じることを教えてください。

「児童手当やこども医療費助成など金銭的支援」が60.0%で最も多く、次いで「サークルや子ども会など地域交流の機会」が50.0%となっています。

項目	度数	構成比
児童手当やこども医療費助成など金銭的支援	6	60.0%
保育園や幼稚園、学童など通常の預け先	2	20.0%
一時保育や病児保育など臨時的な預け先	1	10.0%
不安や悩みを聞いてもらえる相談の場	2	20.0%
サークルや子ども会など地域交流の機会	5	50.0%
24時間診療など、いつでも受診できる医療体制	3	30.0%
道路の段差や駅のエレベーターなどのバリアフリー	1	10.0%
子どもを安心して育てられる治安の良さ	1	10.0%
子どもが安心して遊べる公園や自然体験ができる場	4	40.0%
子育て世帯が快適に暮らせる住居や戸建て住宅を建てられる土地など	0	0.0%
子ども食堂などのこどもの居場所	1	10.0%
回答者数	10	
非該当	48	
合計	58	

⑦ どのような結婚支援があれば活用したいと思いますか。【複数選択可】

「将来の不安を解消できる経済的な支援」及び「わからない」が25.9%で最も多く、次いで「出会いの機会を創出するパーティーの開催」が13.8%となっています。

項目	度数	構成比
出会いの機会を創出するパーティーの開催	8	13.8%
公式マッチングアプリ	6	10.3%
将来の不安を解消できる経済的な支援	15	25.9%
結婚サイトやアプリ等による情報提供	3	5.2%
婚活イベントの開催	5	8.6%
コミュニケーションや家事などのセミナーの開催	6	10.3%
わからない	15	25.9%
その他	2	3.4%
無回答	17	29.3%
回答者数	58	

⑧ あなたの心配事や悩み事の相談相手は誰ですか。【複数回答可】

「父母」が75.9%で最も多く、次いで「友人」が74.1%となっています。

項目	度数	構成比
配偶者	4	6.9%
父母	44	75.9%
兄弟姉妹	16	27.6%
祖父母	9	15.5%
その他の親戚	4	6.9%
友人	43	74.1%
インターネット上の友人	2	3.4%
学校・塾などの先生	5	8.6%
職場の同僚・上司	8	13.8%
相談相手がない	2	3.4%
未回答	0	0.0%
その他	3	5.2%
無回答	1	1.7%
回答者数	58	

(5) 婚活に関する調査

対象	配布数	回収数	回収率
婚活イベント参加者	23件	17件	73.9%

※母集団が少ないためグラフを省略しています。

① 活用したいと思う婚活支援

活用したい婚活支援としては、「出会いのイベントの開催」が82.4%と最も多く、次いで「セミナーの開催」の35.3%となっています。

項目	度数	構成比
出会いのイベントの開催	14	82.4%
経済的な支援	4	23.5%
セミナーの開催	6	35.3%
その他(マッチング、未回答)	2	11.8%
無回答	1	5.9%
回答者数	17	

② 将来、こどもがほしいか

将来のこどもの有無では、「はい」という回答が88.2%となっています。

項目	度数	構成比
はい	15	88.2%
いいえ	0	0.0%
わからない	2	11.8%
合計	17	100.0%

③ 鹿沼市でこどもを産み育てたいと考えているか

こどもがほしいと回答した人のうち、鹿沼市でこどもを産み育てたいかと思う人は73.3%となっています。

項目	度数	構成比
はい	11	73.3%
いいえ	0	0.0%
わからない	3	20.0%
無回答	1	6.7%
回答者数	15	100.0%
非該当	2	
合計	17	

④ 心配事や悩み事の相談相手

心配事や悩み事の相談相手としては、「父母」、「友人」が 64.7%と同率で最も多く、次いで「同僚・上司」の 41.2%となっています。

項目	度数	構成比
父母	11	64.7%
兄弟姉妹	3	17.6%
祖父母	2	11.8%
親戚	0	0.0%
友人	11	64.7%
インターネット上の友人	0	0.0%
先生	0	0.0%
同僚・上司	7	41.2%
相談相手がいない	1	5.9%
回答者数	17	

